

2 学 期	・論理の展開を的確に押さえ、筆者の主張をとらえる。 ・科学技術の進歩と人間の本質について、考えを深める。 教材： 「環境」とは何か 「立場を明確にして書く」	・「ロイロノート」「Teams」等のツールを用い、一人1台端末を活用する。 ・人間を人間たらしめている「コア」とは何か、という問いを考える。 ・私たちは科学とどのように向き合うべきかを考える。 ・人間と機械の協働の重要性を考える。 ・自分の立場を決めた上で、根拠を示しながら論理的に意見を述べられるようにする。	○	○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。言葉の意味内容をあらためて考え、認識や思考と言葉との関係を理解している。 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習課題に沿って、論理の展開に注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	○	○	○	8
	定期考査					○	○		1
	・敬語についての筆者の主張と論理の展開を的確につかむ。 ・敬語や若者言葉など、言葉と社会の関係に興味をもち、考えを深める。 教材： 「である」ことと「する」こと 「消費されるスポーツ」 6 思考の枠組み ・提案を検討する際に必要な要素を押さえる。 ・効果的な表現や資料の提示のしかたを工夫する。 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・「ロイロノート」「Teams」等のツールを用い、一人1台端末を活用する。 ・社会生活のさまざまな場面で言葉を使い分ける必要性や、使い分けの効用について考える。 ・自分たちの使っている言葉について、あらためて考え直す。 ・自身の用いる言葉について、あらためて考えを深める。 ・レポート作成などの活動に向けて、情報を集めて整理できるようにする。	○	○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、関連する文章や資料をもとに、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習課題に沿って、敬語のもつ働きに注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしている。	○	○	○	8
		・「ロイロノート」「Teams」等のツールを用い、一人1台端末を活用する。 ・ものの見方や認識について考えを深め、日頃当たり前に接しているものごとについて、視点を変えて掘り下げてみることの大切さを学ばせる。 ・「見る」ことと「観察」することとの違いを、適切な素材を利用しながら平易に解き明かし、視覚情報からより多くの情報を読み取る術を理解する。 ・アナログとデジタルの違いを具体的な地図の働きを例に取ることで、実感をもって理解する。 ・図版から情報を読み取り、それを分析する。	○	○	【知識・技能】 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法および表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、自分の考えやことがらが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明のしかたを考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現のしかたを工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・積極的に、課題に沿った「提案に必要な要素」を挙げようとしている。	○	○	○	8
	定期考査						○	○	

[illegible]

高等学校 令和7年度(2学年用)

教科 国語 科目 古典総合

教科 教科 国語 科目 古典総合 単位数 3 単位

対象学年組 第2学年 A組～ F組

教科担当者 (A・B組 森脇) (C・D組 森脇) (E組 久保田) (F組 久保田)

使用教科書 (数研出版「古典探究」)

教科 教科 国語 の目標

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
- 【思考力、判断力、表現力等】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 古典総合 の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学期	古文1 説話『十訓抄』 【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとすることができる。	・教材「大江山」 ・「丹後へ遣はしける人は参りたりや」とは、どのようなことを言おうとしたのか説明させる。 ・「大江山……」の歌で、小式部内侍が伝えようとしたことを説明させる。 ・「返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけり」とは、誰がなぜそうにしたのか説明させる。 ・「大江山」はどのような教訓を示すために収録されていると考えられるか話し合わせる。				【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 [A(1)ウ] 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。				8
	古文2 歌物語『大和物語』 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く地の文と和歌の関係性を読み解き、今までの学習を生かして本文全体を解釈しようとすることができる。	・教材「をばすて山」 ・「男」が「をば」を捨ててに至った経過を整理させる。 ・「をば」を捨てた後再び迎えに行くまでの「男」の心情はどのようなものだったか、話し合わせる。				【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [A(1)オ] 【学びに向かう力】 男の心情変化について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。				8
	定期考査									1
	古文3 随筆『枕草子』 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く地の文と和歌の関係性を読み解き、今までの学習を生かして本文全体を解釈しようとすることができる。	・教材「すさまじきもの」 ・第二段落では、何が「すさまじきもの」とされているか。まとめさせる。 ・「ゆるぎありきたるも、いとをかし。すさまじげなり」とはどういうことか。説明させる。 ・現代語「すさまじい」の意味を調べ、古語「すさまじ」からの意味変遷の歴史をまとめさせる。				【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 [A(1)イ] 【学びに向かう力】 「すさまじ」の意味変遷の歴史について進んで調べ、学習の見通しをもって本文理解を深めようとしている。				8

1 学 期	古文4 随筆『方丈記』 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 『方丈記』の教科書掲出箇所以外について積極的に読み、学習課題に沿って考察に取り組もうとすることができる。	・教材「養和の飢饉」 ・本文を五段に分け、それぞれに小見出しをつけさせる。 ・『方丈記』に描かれたさまざまな災害のありさまを読んで、現代に通じる『方丈記』の価値について考えさせる。			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2〕イ 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕 【学びに向かう力】 『方丈記』の教科書掲出箇所以外について積極的に読み、学習課題に沿って考察に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	古文5 随筆『徒然草』 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く本文の内容を読み解き、学習の見通しをもって作者の考えを説明しようすることができる。	・教材「花は盛りに」 ・本文で述べられている「月の見所」「花の見所」をまとめさせる。 ・「男女の情け」における「始め終はり」とは、どのような状態を言うのか説明させる。			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2〕イ 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 【学びに向かう力】 粘り強く本文の内容を読み解き、学習の見通しをもって作者の考えを説明しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査						○	○		1
2 学 期	古文6 歴史物語『大鏡』 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようすることができる。	・教材「道長の剛胆」 ・「大内裏部分略図」を参考にして、登場人物の行き先やたどった経路を確認させる。 ・道長の言動に対する評価の言葉を取り上げ、誰のどのような評価であったのかを整理させる。 ・道隆・道兼・道長の人物像をまとめ、比較させる。			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2〕イ 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 【学びに向かう力】 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。	○	○	○	8
	古文7 歴史物語『大鏡』 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 一語の解釈の違いで発言全体の真意がどう変わるか粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようすることができる。	・教材「南院の競射」 ・道長と伊周はそれぞれどのような人物として描かれているか、まとめさせる。 ・道隆が、「色青く」なったり、「な射そ」と言ったりした理由を考えさせる。 ・「いま二度延べさせ給へ」という発言の真意はどこにあるのか、話し合わせる。			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2〕イ 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。〔A(1)ウ〕 【学びに向かう力】 一語の解釈の違いで発言全体の真意がどう変わるか粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査						○	○		1

2 学 期	古文8 軍記物語『平家物語』 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえながら本文を解釈し、学習課題に沿って朗読劇に取り組もうとすることができる。	・教材「壇ノ浦」 ・二位殿の言葉から、安徳天皇に対するどのような思いが感じ取れるか、考えさせる。 ・知盛の言動からどのような人物像が浮かび上がってくるか、話し合わせる。 ・本文の解釈を踏まえ、地の文と各登場人物に役割を分けて朗読劇をさせる。	○	○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2〕イ 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)イ〕 【学びに向かう力】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえながら本文を解釈し、学習課題に沿って朗読劇に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	古文9 物語『源氏物語』 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとするすることができる。	・教材「小柴垣のもと」 ・「生ひ立たむ……」と「初草の……」の歌について、「若草」「露」「初草」が何をたとえているか、それぞれの歌は何を訴えようとしているか、説明させる。 ・光源氏は「女子」のどこに興味をひかれているのか、説明させる。	○	○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2〕イ 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 【学びに向かう力】 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	○	○	○	8
	古文10 日記文学『建礼門院右京大夫集』 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 平賀盛の逸話について進んで調べ、学習課題に沿って本文理解と自分の考えを深めようとするすることができる。	・教材「なべて世の」 ・大原の庵の周辺の様子などのように描かれているか整理させる。 ・女院の、過去の様子と現在の様子などのように比較されているか整理させる。 ・「今や夢……」「あふぎ見し……」「山深く……」の三首の歌を現代語訳し、それぞれの歌に込められている作者の思いをまとめさせる。	○		【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2〕イ 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 【学びに向かう力】 積極的に作者の見たものや心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査					○	○		1
3 学 期	漢文1 故事 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 「画竜点睛」という成語の成り立ちについて進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈することができる。	・教材「画竜点睛（歴代名画記）」 ・張僧繇はどのような画家として描かれているか、本文からわかることを挙げさせる。	○	○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2〕イ 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 【学びに向かう力】 「画竜点睛」という成語の成り立ちについて進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	○	○	○	6

	漢文2 漢詩（絶句・律詩） 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 漢詩の詩型・押韻・対句について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈することができる。				・教材「鹿柴（王維）」 「旅夜書懷（杜甫）」 ・それぞれの詩について、一句の字数、一首の句数、押韻を確認させる。 ・それぞれの詩について対句表現を抜き出し、表現効果を考察させる。				【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 [A(1)イ] 【学びに向かう力】 漢詩の詩型・押韻・対句について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	○	○	○	7
3 学期	漢文3 史伝『史記』 【知識及び技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 項羽の認識について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとするすることができる。				・教材「四面楚歌」・「四面楚歌」という成語が現在どのような意味で使われているか調べさせる。 ・項羽は敗戦の原因をどのように考えているか、詩の一句目と二句目の表現を踏まえて考えさせる。				【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ] 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 [A(1)イ] 【学びに向かう力】 項羽の認識について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	○	○	○	7
定期考査										○	○		1 合計 105

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科		国語	科目	古典基礎
教 科：	国語	科 目：	古典基礎	単位数： 2 単位
対象学年組：第 2 学年 A 組～ D 組				
教科担当者：（AB組：久保田）（CD組：久保田）				
使用教科書：数研出版「高等学校 古典探究」（ ）				
教科 国語 の目標：				
【知 識 及 び 技 能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。				
【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。				
【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。				
科目 古典基礎 の目標：				
【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			語・文	書	読					
1 学 期	古文 説話/大江山（十訓抄）	・「丹後へ遣はしける人は参りたりや」とは、どのようなことを言おうとしたのか説明する。 ・「大江山……」の歌で、小式部内侍が伝えようとしたことを説明する。 ・「返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけり」とは、誰がなぜそのようにしたのか説明する。 ・「大江山」はどのような教訓を示すために収録されていると考えられるか話し合う。			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 【学びに向かう力】 積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	5
	古文 歌物語/初冠（伊勢物語）	・それぞれの歌について修辞法を確認する。 ・「男」が着ていた「狩衣の裾」を切り取って歌を書いたのはなぜか、考える。 ・「かくいちはやきみやび」とは「男」のどのような言動を指して言ったものか、説明する。 ・「春日野の……」の歌と「みちのくの……」の歌の類似点・相違点を考える。			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 【学びに向かう力】 粘り強く「春日野の…」歌と「みちのくの…」歌を比較し、学習課題に沿って類似点・相違点を整理しようとしている。	○	○	○	5
	漢文 故事/ズームアップ 訓読の歴史	・訓読で教材を朗読する。 ・音読みによる直読で教材を朗読する。 ・口語訳で教材を朗読する。 ・三種類の朗読から受ける印象の違いを話し合う。			○	【知識・技能】 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 【学びに向かう力】 朗読から受ける印象の違いを話し合う活動において、積極的に話し合いに参加している。	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1
	古文 随筆(→)すさまじきもの（枕草子） 随筆(→)大納言殿参り給ひて（枕草子）	・第二段落では、何が「すさまじきもの」とされているか。まとめる。 ・「ゆるぎありきたるも、いとをかし。すさまじげなり」とはどのようなことか。説明する。 ・現代語「すさまじい」の意味を調べ、古語「すさまじ」からの意味変遷の歴史をまとめる。			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力】 「すさまじ」の意味変遷の歴史について進んで調べ、学習の見通しをもって本文理解を深めようとしている。	○	○	○	6
	漢文 漢詩/ズームアップ 漢詩を作ってみよう	・単元内の教材の学習を踏まえて、漢詩の規則を確認する。 ・「春」をテーマとした七言絶句を作る。			○ ○	【知識・技能】 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 【学びに向かう力】 漢詩の創作に粘り強く取り組んでいる。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1

2 学 期	古文 物語/光源氏誕生（源氏物語） 物語/小柴垣のもと（源氏物語）	・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。 ・「一の皇子」と「玉の男皇子」とに対する帝の接し方の違いを説明する。 ・帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。			【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 【学びに向かう力】 登場人物の心情とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	8	
	漢文 史伝/鴻門之会	・「鴻門の会」の読解を踏まえ、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。 ・「四面楚歌」「項王自刎」の読解を踏まえ、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。			【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力】 本文から読みとった項羽や劉邦の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察し、主体性をもって話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	6	
	定期考査						○	○	1	
	古文 随筆(口)ゆく河の流れ（方丈記） 随筆(口)あだし野の露（徒然草）	・「世の中にある人と栖と、またかくのごとし」について、「人と栖」が何とどのように同じなのか、説明する。 ・「無常」に対する作者の考えについて、説明する。			【知識・技能】 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力】 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。	○	○			6
3 学 期	漢文 思想/探究の扉 未来に備える遺伝子	・「未来に備える遺伝子」を読んで、単元内で学習した諸子百家の文章に見える考え方との共通点を考える。 ・諸子百家の文章から現代に通じる考え方を探し、文章としてまとめる。			【知識・技能】 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 【学びに向かう力】 諸子百家の文章から現代に通じる考え方を粘り強く見いだし、積極的に文章に表そうとしている。	○	○	○	6	
	定期考査						○	○	1	
	古文 歴史物語/花山天皇の出家（大鏡） 歴史物語/南院の競射（大鏡）	・「さりとて」「さりととも」「さること」「さり」「さる」が指す内容を説明する。 ・花山天皇の出家はどのように行われたのか、道兼の行動に注意しながらまとめる。 ・花山天皇と道兼の人物像をまとめる。			【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力】 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。	○		○	○	8
	漢文 文章/売油翁	・単元内の教材の学習を踏まえて、道家思想が後世の文章に影響を与えた経緯を学習する。 ・「売油翁」の末尾一文の意味を、典故となる『莊子』の文章を踏まえて考え、グループで話し合う。			【知識・技能】 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 【学びに向かう力】 「売油翁」の末尾一文の意味について、グループでの話し合いにおいて積極的に意見を発表している。	○		○	○	4
	定期考査						○	○	1	
									合計	70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 世界史基礎

教科： 地理歴史 科目： 世界史基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ D 組

教科担当者：（A組：小山）（B組：小山）（C組：小山）（D組：小山）

使用教科書：（詳説世界史（山川出版社））

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史的展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、構想、考察したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して認識される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを養う。

科目 世界史基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して認識される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第1章2節 古代オリエント文明とその周辺	①オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ②都市国家に富や権力が集まった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③メソポタミア文明が今日に残した文化的遺産を理解する。 ④エジプト王国が長期にわたって安定した支配を続けられた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤シリア・パレスチナ地方で多くの民族が興亡を繰り返した背景を理解する。 ⑥クレタ文明とミケーネ文明を比較し、そのあいだの性格の違いを理解する。 ⑦アッシリアがオリエントをはじめて統一することができた背景を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】都市の成立や文字の使用など、古代文明に共通する歴史的特質を理解している。 【思考・判断・表現】壁画や粘土板などの資料をもとに、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】文明の誕生について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	第1章4節 中国の古代文明	①東アジアでは、気候の異なる地域が混在していたことを理解し、それぞれの気候が各地の生産などに与えた影響を考察し表現する。 ②殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③春秋時代と戦国時代を比較し、とくにそれぞれの秩序について違いを見出す。 ④戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】東アジア各地の風土が、それぞれの地で多様な生産とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解している。 【思考・判断・表現】青銅器や獣骨など考古学的資料や『春秋左氏伝』などの資料をもとに、当時の政治や支配のあり方を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】中国の古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	第2章1節 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界	①中央ユーラシアの人々が営んでいた生活と風土との関係を理解する。 ②騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 ③遊牧国家の興亡がユーラシア大陸の東西にもたらした変動を理解する。 ④オアシス民と遊牧民の関係を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】中央ユーラシアの厳しい環境に適応した遊牧民やオアシス民の生活のありさまや、彼らの周辺の諸勢力との関係を理解している。 【思考・判断・表現】風土を示す写真や『史記』匈奴列伝などの資料をもとに、中央ユーラシアの人々の動向が、世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】中央ユーラシアの動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	第2章2節 秦・漢帝国	①新たに現れた「皇帝」の特質について、それまでの「王」と比較しながら理解する。 ②漢の支配体制の変遷を理解する。 ③統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を、多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】秦・漢といった統一国家の支配体制について、それまでの春秋・戦国時代と比較したうえで理解している。 【思考・判断・表現】兵馬俑や青銅貨幣など考古学的資料や『塩鉄論』禁耕などの資料をもとに、秦・漢の時代に生じた地域間の結びつきの変化や、統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】秦・漢帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第2章3節 中国の動乱と変容	①遊牧民族の動きと魏晉南北朝の動乱との関係について理解する。 ②魏晉南北朝時代に仏教や道教が力を持つようになった要因や背景を、多面的・多角的に考察し表現する。 ③魏晉南北朝時代の中国の情勢が、朝鮮や日本に与えた影響について理解する。	【知識・技能】魏晉南北朝の動乱がどのように展開したのかについて、遊牧民族との関わりもふまえたうえで理解している。 【思考・判断・表現】「女史箴図」などの図像資料や『顔氏家訓』などの資料をもとに、魏晉南北朝時代の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】魏晉南北朝の動乱について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	第2章4節 東アジア文化圏の形成	①唐の勢力圏の広がりを理解する。 ②唐代初期の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③唐の制度や文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。 ④安史の乱前後の唐の制度や社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤突厥・ウイグルと隋・唐の関係を理解する。 ⑥ソグド人の中央ユーラシアや東アジアにおける役割について理解する。	【知識・技能】隋・唐の社会や制度、支配体制について、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解している。 【思考・判断・表現】壁画などの図像資料や『旧唐書』輿服志などの資料をもとに、隋・唐の社会の特徴や近隣諸国への影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	7
3 学 期	第4章1節 イラン諸国家の興亡とイラン文明	①アケメネス朝が広大な領域に中央集権の支配を築ことができた背景や要因を理解している。 ②パルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解する。 ③パルティアとササン朝が東西の文明の間で担った役割を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】アケメネス朝、パルティア、ササン朝といったイラン諸国家がそれぞれどのように興亡したのかを理解している。 【思考・判断・表現】ササン朝と法隆寺の「獅子狩」図案などの資料をもとに、イラン文明が世界の諸地域に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】イラン文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	第4章2節 ギリシア人の都市国家	①ポリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリメントの都市国家と比較したうえで理解する。 ②スパルタが軍国主義をしいた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。 ④ギリシアの諸ポリスがマケドニアに敗れた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ヘレニズム時代の歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ギリシア文明が近代ヨーロッパにもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 【思考・判断・表現】オストラコンなどの考古学的資料や「ペリクレスの演説」などの資料をもとに、ギリシアの人の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】古代ギリシアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	7
合計							60

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 公民 科目 公共

教科 科： 公民

科 目： 公共

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A組： 増山 ）（B組： 増山 ）（C組： 増山 ）（D組： 増山 ）（E組： 増山 ）（F組： 増山 ）

使用教科書：（ 公共 （東京書籍） ）

教科 公民

の目標：

【知識及び技能】選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

科目 公共

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生きる国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 青年期と自己形成の課題 ・青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について考察する。	・青年期における心の動きや自分自身の捉え方、人間関係などの特徴をふり返りながら、青年期の特徴や発達課題について理解する。	【知識・技能】 ・青年期の特徴及び青年期の発達課題であるアイデンティティの確立の意味について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・青年期の特徴やアイデンティティの確立の視点から、自己形成の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・青年期の特徴やアイデンティティの確立について、自分自身の課題としても捉え、主体的に追究している。	○	○	○	3
	B 個人として尊重される人間 ・自由についてのカントの道徳法則と人格、J.S. ミルの自由についての考え方の理解を基に、人間を「個人」として尊重することの意味について多面的・多角的に考察する。	・規則と自由に関する課題について、カントの義務論やJ.S. ミルの自由論を手がかりに、実際の場面を想定しながら、理解を深めさせる。	【知識・技能】 ・規則と自由の課題について、カントの道徳法則に基づく自由とJ.S. ミルの自由の考え方を比較しながら理解している。 【思考・判断・表現】 ・人間が個人として尊重されることの意味について、カントやJ.S. ミルの考え方を手がかりに、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・人間が「個人」として尊重されることの意味について、自由や人格、幸福などに関する先人の思想を手がかりに主体的に追究している。	○	○	○	2
	C 功利主義と幸福の原理 ・行為選択の理由付けについて、目的論と義務論の考え方があることを理解する。 ・目的論に関して、帰結主義による功利主義と徳倫理学の主な考え方を理解する。 ・これらの先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論する。	・行為の判断や選択の場面を想定し、まず目的論と義務論の区別について理解を促す。 ・功利主義の快樂や幸福の考え方が、社会のあり方と関連していることを、経済や福祉政策などを事例に理解させる。 ・人間にとっての善さや幸福を、人が徳を備えることに求める考え方を理解させる。 ・思考実験を用いて選択・判断とその理由について考察させる。	【知識・技能】 ・行為の理由と正当化にかかわる目的論と義務論について理解するとともに、目的論にかかわって功利主義と徳倫理学について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・ベンサム、J.S. ミルの功利主義の考え方及び徳倫理学による幸福の捉え方について、思考実験の例などを用いて多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・正しさや善さを裏付ける考え方について、先人の思想を手がかりに主体的に追究している。	○	○	○	2

1 学 期	D 義務論と公正の原理 ・義務論について、カントの道徳法則や自律の意味について理解する。 ・社会的不平等の是正について、ロールズの公正としての正義の考え方やセンの潜在能力という考え方を理解する。 ・これらの先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論する。	・結果ではなく義務に基づいて行動すべきとする場面を想定しながら、カントの考え方を理解する。 ・社会的不公正の是正について、社会保障政策などを手がかりにロールズやセンの考え方を理解する。 ・思考実験を用いて選択・判断とその理由について考察させる。	【知識・技能】 ・義務論の代表的な考え方としてカントの道徳法則や自律について理解するとともに、ロールズの公正としての正義やセンの潜在能力の意義について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・功利主義の考え方と比較しながら、義務論の考え方及び正義に関するロールズの考え方や潜在能力に関するセンの考え方について、思考実験の例などを用いて多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・正しさや善さを裏付ける考え方について、先人の思想を手がかりに主体的に追究している。	○	○	○	2
	定期考査			○	○		1
	E 民主主義とは ・社会における意見や利害の調整、意思決定における民主主義の意義、それらの課題について理解する。	・民主主義の手続きや方法の意義について具体例をあげながら理解させるとともに、その課題について考えさせる。	【知識・技能】 ・政治における意思決定の方法としての民主主義の意義と課題、直接民主制と間接民主制について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・国民や市民の意思を政治に反映させる民主主義の意義と課題、直接民主制と間接民主制の特色について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・社会構成員の間の対立を調整し、意思を集約・決定するしくみとしての民主主義の意義と課題について、主体的に追究している。	○	○	○	4
	F 人権保障の意義と展開 公共的な空間における基本的原理の一つである、人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について理解する。	・人間の尊厳と平等、基本的人権の尊重の意義について理解させるとともに、歴史的経過の中で発展し今日に至っていることに気付かせる。 ・現代における人権の展開については、国内の法整備にも具体化されていることに気付かせる。	【知識・技能】 ・近代以降の社会構成の原理である基本的人権の尊重、人間の尊厳と平等の意義、人権の歴史的発展と人権保障の広がりについて理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・社会生活において人権保障が実際に確保されるためには、何が必要か、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・人間の尊厳と平等、人権保障の歴史的発展や現代における人権の広がりについて、主体的に追究している。	○	○	○	10
	G 地方自治のしくみと役割 ・地方自治の原則としくみ、地方財政のしくみと課題、住民参加の形態と意義について理解するとともに、地方自治の課題について考察する。	・地方自治の本旨について確認すると同時に、国の政治と比較しながら地方自治のしくみについての理解を促す。 ・地方財政については、具体例などを取り上げながら、財政や事務について理解を促す。	【知識・技能】 ・地方自治の本旨とそのしくみ、地方財政のしくみと課題、地方自治における住民参加の意義などについて理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・地方自治の本旨とそのしくみ、地方財政のしくみと課題、地方自治における住民参加の意義などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・地方自治の本旨とそのしくみ、地方財政のしくみと課題、地方自治における住民参加の意義などについて、主体的に追究している。	○	○	○	3
	H 国会のしくみと役割 ・三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営について、実際の政治事象とも関連させながら理解する。 ・政治のしくみと制度を前提として展開される実際の政治の運営の現状と課題について考察する。	・三権分立、国会の組織と権限については、日本国憲法の該当条文も参照しながら、理解を促す。 ・実際の政治事象を取り上げながら、国会の果たしている役割について具体的に理解できるようにする。	【知識・技能】 ・三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営について、制度の基本理念と実際の政治運営の関係などの観点から、主体的に追究している。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1

2 学 期	I 内閣のしくみと役割 ・内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革について、実際の政治事象とも関連させながら理解する。 ・国会を基盤に行政権を行使する内閣と行政組織、行政権が肥大化した今日の行政の課題について考察する。	・内閣と国会の関係については、日本国憲法の条文を参照させると同時に、実際の政治事象を参考に理解を促す。 ・行政機構と行政事務については、具体的な事例を参考に理解を促す。 ・行政権の役割の拡大にともなう諸課題と対応について具体例を取り上げながら考えることができるようにする。	【知識・技能】 ・内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革について制度の基本と実際の政治運営の関係などの観点から、主体的に追究している。	○	○	○	3
	J 政治参加と選挙 ・政治参加のさまざまな方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について、実際の事象とも関連させながら理解する。 ・有権者の意思をよりよく反映するという観点から、日本の選挙制度について考察する。	・近代の選挙の原則の重要性を確認するとともに、日本の選挙制度について、近年の実施例なども取り上げながら、具体的な理解を図る。 ・18歳から選挙権を有することをふまえ、投票による政治参加の意義に気付かせる。	【知識・技能】 ・政治参加のさまざまな方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・政治参加のさまざまな方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・政治参加のさまざまな方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について、主体的に追究している。	○	○	○	3
	K 政党と利益集団 ・民主政治における政党の役割、日本の政党政治、政治に影響を及ぼそうとする利益集団、政治資金にかかわる課題などについて理解する。 ・民主政治における政党や利益集団の役割、政治資金にかかわる課題について考察する。	・選挙の際の政党の政権公約、政党間の議論などを参考に、政党の役割に気付かせる。 ・利益集団についても具体例をあげながら政治的意味に気付かせる。 ・政治資金については、関連する報道などを参照し、政治資金の規正の重要性に気付かせる。	【知識・技能】 ・民主政治における政党の役割、日本の政党政治、政治に影響を及ぼそうとする利益集団、政治資金にかかわる課題などについて理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・民主政治における政党の役割、日本の政党政治、政治に影響を及ぼそうとする利益集団、政治資金にかかわる課題などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・民主政治における政党の役割、日本の政党政治、政治に影響を及ぼそうとする利益集団、政治資金にかかわる課題などについて、実際の事象とも関連付けながら、主体的に追究している。	○	○	○	2
	L 法と社会規範の役割 ・道徳を含む社会規範における法の特色、法の役割、法の区分とそれぞれの特色について理解させる。 ・法の性格や役割、法の分類、法の成立の歴史や対象などによって区分されることについて考察する。	・法の特色、法の役割については、具体例をあげながら理解を図る。 ・社会法については、日本国憲法に定める社会権の規定との関連に気付かせる。	【知識・技能】 ・道徳を含む社会規範における法の特色、法の役割、法の区分とそれぞれの特色について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・道徳を含む社会規範における法の特色、法の役割、法の区分とそれぞれの特色について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・道徳を含む社会規範における法の特色、法の役割、法の区分とそれぞれの特色について、主体的に追究している。	○	○	○	3
定期考査				○	○		1

2 学 期	M 多様な契約 ・契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて理解する。 ・契約の種類とその特色、契約自由の修正が必要な理由について考察する。	・売買契約、賃貸借契約、労働契約、消費貸借契約などについて、具体的な例を取り上げ、契約自由の原則の意義とその修正が必要な場合について考えさせる。	【知識・技能】 ・契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて、主体的に追究している。	○	○	○	2
	N 消費者の権利と責任 ・消費者契約の特色、消費者法制と消費者の権利、消費者主権と消費者市民社会形成などについて理解する。 ・消費者契約や消費者法制が、消費者の権利とその尊重、自立支援をめざしていることについて具体的な例を通して考察する。	・消費者問題の例を取り上げて、消費者契約や消費者法制、消費者支援機関の役割、消費者市民社会の形成について考えさせる。	【知識・技能】 ・消費者契約の特色、消費者法制と消費者の権利、消費者主権と消費者市民社会形成などについて理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・消費者契約の特色、消費者法制と消費者の権利、消費者主権と消費者市民社会形成などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・消費者契約の特色、消費者法制と消費者の権利、消費者主権と消費者市民社会形成などについて、主体的に追究している。	○	○	○	2
	O 市場経済のしくみ ・市場経済における価格の働き、市場の失敗と政府の役割について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ・市場メカニズムの意義と限界、政府の役割が求められることとの関係について考察する。	・価格の働きについては、需要曲線・供給曲線を利用して理解を促す。 ・外部不経済、寡占市場における資源配分のゆがみなどについては、具体的な事象を参照しながら理解できるようにする。	【知識・技能】 ・市場経済における価格の働き、市場の失敗と政府の役割について、理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・市場経済における価格の働き、市場の失敗と政府の働きについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・市場経済における価格の働き、市場の失敗と政府の働きについて、主体的に追究している。	○	○	○	3
	P 国民所得と経済成長 ・経済の指標の計算方法と意味、経済成長とその要因、景気変動と物価について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ・景気変動や物価の変動、インフレーションなどが人々の生活にどのように影響を及ぼすか考察する。	・経済の大きさや動きなどを示す指標としてGDPがあること、また、豊かさを示す上でのGDPの限界にも気付かせる。 ・経済成長率は、経済政策の目安となると同時に、各国の経済の動向を示す目安としても用いられていることに気付かせる。	【知識・技能】 ・経済の指標の計算方法と意味、経済成長とその要因、景気変動と物価について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・経済の指標の計算方法と意味、経済成長とその要因、景気変動と物価について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・経済の指標の計算方法と意味、経済成長とその要因、景気変動と物価について、主体的に追究している。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1

3 学 期	Q 金融のしくみと働き ・貨幣の役割と通貨制度、直接金融と間接金融、金融システム、金融市場と金利の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ・金融と金融システムが日々の生活と密接にかかわっていることに気付く。	・銀行や証券会社、保険会社などの具体的な金融機関の業務などを調べることとおして、金融のしくみについて理解を促す。	【知識・技能】 ・貨幣の役割と通貨制度、直接金融と間接金融、金融システム、金融市場と金利の動きについて理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・貨幣の役割と通貨制度、直接金融と間接金融、金融システム、金融市場と金利の動きについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・貨幣の役割と通貨制度、直接金融と間接金融、金融システム、金融市場と金利の動きについて、主体的に追究している。	○	○	○	4
	R 中央銀行の役割と金融環境の変化 ・中央銀行の役割、中央銀行の行う金融政策、金融の自由化と金融商品の多様化について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ・金融政策の近年の動向、金融の自由化と金融商品の多様化にともなっているどのような課題があるかを考察する。	・金融政策については、市場における通貨量の調整がどのようにして図られるのか、そのしくみに着目して理解を促す。 ・金融の自由化、金融商品の多様化が、消費者にどのような利便性と課題をもたらしているか、具体的に考えさせる。	【知識・技能】 ・中央銀行の役割、中央銀行の行う金融政策、金融の自由化と金融商品の多様化の動向について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・中央銀行の役割、中央銀行の行う金融政策、金融の自由化と金融商品の多様化の動向について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・中央銀行の役割、中央銀行の行う金融政策、金融の自由化と金融商品の多様化の動向について、主体的に追究している。	○	○	○	4
	S 国際社会の成り立ち ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。 ・国際社会において国家間のさまざまな問題が生じる背景と外交や国際法の意義について多面的・多角的に考察する。	・国際法は国内法と比較しながらその特色が理解できるようにする。 ・国家間のさまざまな問題や国際法については、具体例を示しながら理解を促す。	【知識・技能】 ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、主体的に追究している。	○	○	○	3
	T 国際連合の役割 ・集団安全保障としての国際連盟、国際連合の成立とそのしくみ、国際連合における安全保障、国際連合のさまざまな役割と課題について、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。 ・国連の安全保障に果たす意義と課題について考察する。	・国際連合の安全保障への取り組みについては、実際の国際紛争の例を資料として示しながら理解を促す。 ・国際連合の機関の活動が、世界の多くの人々の生活と密接にかかわっている点に気付かせる。	【知識・技能】 ・集団安全保障としての国際連盟、国際連合の成立とそのしくみ、国際連合における安全保障、国際連合のさまざまな役割と課題について理解している。 ・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・集団安全保障としての国際連盟、国際連合の成立とそのしくみ、国際連合における安全保障、国際連合のさまざまな役割と課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・集団安全保障としての国際連盟、国際連合の成立とそのしくみ、国際連合における安全保障、国際連合のさまざまな役割と課題について、主体的に追究している。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅱ

教 科： 数学

科 目： 数学Ⅱ

単位数： 4 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（AB組：大内・清水・村田）（CD組：清水・石山・村田）（EF組：大内・清水・村田）

使用教科書：（ N E X T 数学Ⅱ 数研出版

）

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数
学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付け
るようになる

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認
識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確
に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的
論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深め
たり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 式と証明 【知識及び技能】 ・三次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深めること。 ◎$(a+b)^n$の展開式とパスカルの三角形の関係および、パスカルの三角形の性質を理解している。 ・練習6～7 ◎二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ・例5、例題1、練習8～9 【思考力、判断力、表現力等】 ・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 ・実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を方程式・式と証明の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・指導内容 (7) 多項式の乗法、除法の計算や、分数式の計算ができるようにする。また、恒等式について方程式と区別して理解し、様々な式の見方ができるような力を培う。 (イ) 式の計算や実数の様々な性質を活用して、等式の証明や不等式の証明ができるようにする。 (ウ) 三次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深めること。 ・教材 ・一人1台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ◎公式を利用して3次式の展開ができる。 ・例1～2、練習1、3 ◎公式を利用して3次式の因数分解ができる。 ・例3、練習4 ◎$(a+b)^n$の展開式とパスカルの三角形の関係および、パスカルの三角形の性質を理解している。 ・練習6～7 ◎二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ・例5、例題1、練習8～9 【思考・判断・表現】 ◎不等式の基本性質を正しく用いて不等式を証明できる。また、その証明を読み取って、基本性質をどのように用いて証明しているか説明することができる。 ・例13、練習30～31 ◎絶対値の性質を利用して、絶対値記号を含む不等式を証明できる。また、その証明を読み取り、絶対値の性質をどのように用いて証明しているか説明することができる。 ・応用例題4【？】、練習35 ◎不等式の証明で、等号が成り立つ場合について考察できる。 ・小項目B、D、E 【主体的に学習に取り組む態度】 - 多項式の割り算および割り算で成り立つ等式を整数の割り算についてのものと比較して理解し、余りの次数にも注意して積極的に考察し、活用しようとする。	○	○	○	24
	中間考査			○	○		1
	B 複素数と方程式 【知識及び技能】 ・数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・指導内容 (ア) 数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算ができるようにする。また、複素数を用いて、2次方程式やその解についてより一般的に考察できるようにする。 (イ) 高次方程式を、因数分解などの方法でより低い次数の方程式に帰着することで解いたり、その解について考察したりできるようにする。 (ウ) 座標や式を用いて、点や直線についてその性質や関係を数学的に表現できるようにし、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 (エ) 座標や式を用いて、円についてその性質を数学的に表現できるようにし、直線との関係、円どうしの関係など事象の考察に活用できるようにする。 ・教材 ・一人1台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ◎複素数に関する用語の定義および複素数の相等の定義を理解している。 ・例1、例題1、練習1～2 ◎複素数の加法、減法、乗法の計算ができる。 ・例2～3、練習3～4 ◎共役複素数の定義を理解し、それを利用して複素数の除法の計算ができる。 ・例4～5、練習5～6 ◎負の数の平方根について理解し、それらを含む式の計算ができる。 ・例6～7、練習7～8 【思考・判断・表現】 ◎負の数の平方根の積について、正の数の平方根で成り立っていた計算法則が成り立たないことを考察できる。 ・練習9 【主体的に学習に取り組む態度】 ◎数の範囲を実数から複素数へ拡張することについて、有理数から実数に拡張したことから関連させ、考察しようとする。 ・p. 44 ◎複素数が四則について閉じていることなど、複素数の性質を、実数の性質と関連させながら理解し、考察しようとする。 ・p. 48	○	○	○	23
	期末考査			○	○		1

2 学 期	C 図形と方程式 【知識及び技能】 ○2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べることができる。 ○2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係から、円の方程式を求めることができる。 ○2円の交点を通る図形の方程式を、$kF(x, y) + G(x, y) = 0$の形を利用して求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 2つの円の共有点について、2つの円の方程式を適切に変形して考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・2つの円の方程式から導かれる1次方程式について、それが表す直線がどのようなものか考察しようとする。粘り強く考え数学的論拠に基づき判断すること。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善すること。	・指導内容 (ア)座標や式を用いて、円についてその性質を数学的に表現できるようにし、直線との関係、円どうしの関係など事象の考察に活用できるようにする。 (イ)図形を与えられた条件を満たす点の集合として認識し、軌跡の方程式が求められるようにする。 また、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解する。さらに、軌跡や領域を事象の考察に活用できるようにする。 (ウ)角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について理解し、それらを多面的に考察できるようにする。 (エ)加法定理および加法定理から導かれる様々な定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・教材 ・一人1 台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ○軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ・例13, 例題17, 練習35 ○媒介変数処理が必要な軌跡を求めることができる。 ・応用例題5, 練習36 【思考・判断・表現】 ○直線に関して対称な点の座標について、図形の条件を式で表現し、考察することができる。 ・応用例題2, 練習18 ○$kF(x, y) + G(x, y) = 0$の形の方程式が、2直線の交点を通る直線を表す理由を理解し、説明することができる。 ・p. 92 研究 【主体的に学習に取り組む態度】 ○座標平面を用いて図形の性質を一般的に証明する際、一般性を崩さないように点の座標を設定することや、座標軸のとり方によらず証明できることなどに興味をもち、様々な座標や座標軸の設定法を試そうとする。	○	○	○	21
	中間調査			○	○		1
	C 三角関数 【知識及び技能】 ○弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。 ○三角関数の相互関係を理解し、それらを利用して様々な値を求めたり、式変形をしたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ○三角関数の値の符号について考察できる。また、値の増減についても考察し、それを適切に表現できる。 ・練習8, p. 135 Expression ○3つある三角関数の相互関係のどれを用いるかや、式変形の方法を、その理由とともに適切に判断して問題を解決することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○三角比の定義を一般化して、三角関数の定義を考察しようとする。 ○三角比の相互関係について、既習である円の方程式と関連付けて、多面的に考察しようとする。	・指導内容 (ア)加法定理および加法定理から導かれる様々な定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (イ)指数を実数まで拡張する意義を理解し、指数関数を事象の考察に活用できるようにする。 (ウ)対数の定義とその性質を理解し、対数関数、特に常用対数を事象の考察に活用できるようにする。 ・教材 ・一人1 台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ○一般角について理解し、一般角を表す動径を図示したり、動径の表す角を$\alpha + 360^\circ \times n$と表したりできる。 ・例1, 練習1~2 ○弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算ができる。また、動径が表す角について弧度法で考えることができる。 ・練習3~5 ○扇形の弧の長さや面積を、公式を用いて求めることができる。 ・例2, 練習6 【思考・判断・表現】 ○2倍角の公式を利用して、やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式の角を統一して考察することができる。 ・応用例題3, 練習42~43 ○三角関数の合成を用いて式を変形することで、既習の形に帰着し、関数の最大値・最小値を求めたり、方程式を解いたりすることができる。 ・例題6, 練習45~46 【主体的に学習に取り組む態度】 ○加法定理を利用して、様々な公式を導出・証明しようとする。 ・小項目A, B, D, 練習39 ○同じ周期をもつ2つの関数 $y = \sin x$と$y = \cos x$の和について、そのグラフが正弦曲線になることに興味をもち、式変形やグラフなど、様々な方法で考察しようとする。 ・小項目D, 例題6【？】	○	○	○	24
	D 指数関数と対数関数 【知識及び技能】 ○指数と対数を相互に書き換えることができる。 ・例7, 練習16~17 ○対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。 ・例8, 練習18 ○対数の性質に基づいて、種々の対数の値の計算ができる。 ・例9, 練習20 ○底の変換公式を適用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ○対数の値が存在することを、グラフによって考察することができる。 ・p. 189 ○指数法則を利用して、対数の性質を証明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○指数と対数の関係に興味をもち、性質や計算において、その関係を見出そうとする。	・指導内容 (ア)対数の定義とその性質を理解し、対数関数、特に常用対数を事象の考察に活用できるようにする。 ・教材 ・一人1 台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ○指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を用いた計算をすることができる。 ・例1~2, 練習1~2 ○累乗根の定義や性質を理解し、累乗根の値を求めたり計算したりすることができる。 ○指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を用いた計算をすることができる。 【思考・判断・表現】 ○正の数の累乗根がただ1つ存在することを、グラフによって考察することができる。 ・p. 177 ○累乗根の性質の証明の1つを参考に、別の性質を証明することができる。 ・練習4 ○指数が無理数の場合の累乗の意味を理解することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○0乗、負の整数乗、分数乗は、指数法則が成り立つように定義されていることを理解し、その定義について考察しようとする。 ・小項目A, C ○指数法則を用いた計算について、いくつかの方法を試し、よりよい計算方法を検討しようとする。 ・例題1【？】 ○負の数のn乗根に興味をもち、その値が存在するかどうかも含めて具体的に考察しようとする。 ・p. 181 研究	○	○	○	20
	期末調査			○	○		1

3 学期	F 微分法と積分法 【知識及び技能】 - 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 - 微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 - 事象を微分・積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善すること。	・指導内容 (ウ)導関数を用いて、関数の値の増減が調べられるようにする。また、それを用いて関数のグラフをかくいたり、さらにグラフを様々な事象の考察に活用したりできるようにする。 (エ)不定積分や定積分について理解し、それらの有用性を認識するとともに、定積分を用いてグラフで囲まれた図形の面積が求められるようにする。 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 - 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 - コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 - 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 【思考・判断・表現】 - データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 - 目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 - 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	24
	学年末考査			○	○		合計 140

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学B

教科： 数学 科目： 数学B 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者： （A組：長岡）（B組：長岡）（C組：長岡）（D組：清水）（E組：長岡）（F組：清水）

使用教科書： （ N E X T 数学B 数研出版 ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数
学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付け
るようにする

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認
識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確
に表現する力を養う。

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的
論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めた
り、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学B	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
【学びに向かう力、人間性等】	
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 数列 【知識及び技能】 ○数列の定義、表記について理解し、用語や記号を正確に用いることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ○数列の一般項を表す式を、定義域が自然数であるnの関数と捉え、新しい概念である数列を、既習の関数と関連付けて考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・指導内容 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として、等差数列と等比数列を、両者を比較しながら理解し、それらの和を、公式が導出される過程を理解した上で求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 ・教材 ・一人1台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ◎等差数列の定義と公差について理解し、等差数列の項を求めることができる。 ・例3、練習4～5 ◎等差数列の一般項の求め方を理解し、具体的に求めることができる。 ・例4、練習6 ◎条件から等差数列の一般項を決定できる。 ・例題1、練習7 ○数列が等差数列であることを証明できる。 ・例題2、練習8 ◎等差数列の隣り合う2項の関係から具体的な項を求めることができる。 ・例5、練習9 【思考・判断・表現】 数列が等差数列であることの証明について、それが正しい理由を式の特徴と関連付けて説明できる。 ・例題2【？】 【主体的に学習に取り組む態度】 ○数列の特徴を、隣り合う2項の関係に着目して考察しようとする。・p.10 ○数列の一般項の式の形や係数の意味に興味をもち、考察する。 ・例題1【？】、p.13	○	○	○	11
	中間考査			○	○		1
	A 数列 【知識及び技能】 ○数列の定義、表記について理解し、用語や記号を正確に用いることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ○数列の一般項を表す式を、定義域が自然数であるnの関数と捉え、新しい概念である数列を、既習の関数と関連付けて考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・指導内容 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として、等差数列と等比数列を、両者を比較しながら理解し、それらの和を、公式が導出される過程を理解した上で求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 ・教材 ・一人1台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ○等差数列の和の公式を導出する過程を理解している。 ・p.14～15 ◎公式を用いて等差数列の和を求めることができる。 ・例6、例題3、練習10～11、13 【思考・判断・表現】 ◎項の正負と数列の和の増減の関係から、等差数列の和の最大、最小について考察することができる。 ・応用例題1、練習15 ○数列の和の増減を、関数の増減と捉えて考察し、項の正負を用いた考察との違いや関連を説明することができる。 ・練習14 【主体的に学習に取り組む態度】 ○ガウスの逸話も含め、等差数列の和を求める過程に興味をもつ。 ・p.14～15 ○等差数列の和の公式を用いて、奇数の和について成り立つ等式を証明しようとする。 ・練習12	○	○	○	12
	期末考査			○	○		1

2 学 期	B 統計的な推測 【知識及び技能】 ○確率変数や確率分布の意味を理解している。 ◎試行について、確率変数の確率分布を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 確率変数の分散、標準偏差の意味を理解し、分布の特徴について判断することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を統計的な推測の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。粘り強く考え数学的論拠に基づき判断すること。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善すること。	・指導内容 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。 ・教材 ・一人1台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ◎確率変数の期待値を求めることができる。 ・例2～3, 練習3 ◎確率変数Xについて、$aX+b$も確率変数であることを理解し、その期待値を公式を用いて求めることができる。 ・例4, 練習5 ◎確率変数Xについて、X^2も確率変数であることを理解し、その期待値を求めることができる。 ・例5, 練習6 ◎確率変数の分散、標準偏差を、定義から求めることができる。また、分散と期待値の公式を用いて求めることができる。 ・例6～7, 練習7～8 ◎確率変数$aX+b$の分散、標準偏差を、公式を用いて求めることができる。 ・例8, 練習9 【思考・判断・表現】 ◎具体的な事象から確率変数を求め、その期待値について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ◎2つの確率変数の確率分布が等しいことに興味をもち、その意味を解釈しようとする。 ・練習10 ◎2つの確率変数の和や積の期待値、分散に関する種々の公式を、確率変数が独立であるかどうか注意到意しながら導こうとする。 ・p. 67, 70～71	○	○	○	15
	中間調査			○	○		1
	B 統計的な推測 【知識及び技能】 ○確率変数や確率分布の意味を理解している。 ◎試行について、確率変数の確率分布を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 確率変数の分散、標準偏差の意味を理解し、分布の特徴について判断することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を統計的な推測の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。粘り強く考え数学的論拠に基づき判断すること。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善すること。	・指導内容 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。 確率の定義とその性質を理解し、事象の考察に活用できるようにする。 ・教材 ・一人1台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ◎同時分布の意味を理解し、2つの確率変数の同時分布を求めることができる。 ・p. 66, 例9, 練習11 ◎確率変数の和の期待値を、公式を用いて求めることができる。 ・例10, 練習12～13 ◎2つの確率変数が独立であることについて、その意味を正確な定義とともに理解している。 ・例11 ◎独立な2つの確率変数の積の期待値を、公式を用いて求めることができる。 ・例12, 練習15 ◎独立な2つの確率変数の和の分散を、公式を用いて求めることができる。 ・例13, 練習16 ◎3つ以上の独立な確率変数の和や積の期待値、分散を、公式を用いて求めることができる。 ・練習17 【思考・判断・表現】 ◎具体的な事象から確率変数を求め、その期待値について考察することができる。 ・応用例題1, 練習14 【主体的に学習に取り組む態度】 ◎2つの確率変数の確率分布が等しいことに興味をもち、その意味を解釈しようとする。 ・練習10 ◎2つの確率変数の和や積の期待値、分散に関する種々の公式を、確率変数が独立であるかどうか注意到意しながら導こうとする。 ・p. 67, 70～71	○	○	○	18
	期末調査			○	○		1

3 学 期	B 統計的な推測 【知識及び技能】 ○確率変数や確率分布の意味を理解している。 ◎試行について、確率変数の確率分布を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 確率変数の分散、標準偏差の意味を理解し、分布の特徴について判断することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を統計的な推測の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。粘り強く考え数学的論拠に基づき判断すること。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善すること。	・指導内容 母集団と標本、標本調査について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ◎確率密度関数や分布曲線の定義を理解し、連続型確率変数について、確率を求めることができる。 ・例16, 練習21 ○正規分布曲線の特徴を理解している。 ・p. 79 ○一般の正規分布に従う確率変数を標準正規分布に従う確率変数に変換することができる。 ・例17, 練習23 ○標準正規分布に従う確率変数について、正規分布表を用いて確率を求めることができる。 ・例18, 練習25 ◎一般の正規分布に従う確率変数について、正規分布表を用いて確率を求めることができる。 ・例題1, 練習26 ◎二項分布を正規分布で近似して、確率を求めることができる。 ・例題2, 練習28 ○一般の連続型確率分布に従う確率変数について、定積分を用いて期待値と分散を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○標準正規分布の期待値、分散について、既知の公式を用いて証明することができる。 ・練習22 ○標準正規分布に従う確率変数の確率について、分布曲線の特徴に関連付けて説明できる。 ・練習24 ○正規分布に従う確率変数の確率についての等式を、言葉で正確に表現することができる。 ・p. 82 Expression ◎正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。 ・応用例題2, 練習27 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象をデータの確率分布の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	10
	学年末考查			○	○		合計 70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

数学

科目

数学C

教科： 数学

科目： 数学C

単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ D 組

教科担当者：（AB組：清水）（CD組：長岡）

使用教科書：（ N E X T 数学C 数研出版 ）

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数
学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付け
るようにする

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認
識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確
に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的
論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深め
たり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学C

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A ベクトル 【知識及び技能】 ○ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ○数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。また、ベクトルの内積について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・指導内容 ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 また、これらの事柄を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 ・教材 ・一人1 台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ○有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ・p. 8～9 ◎ベクトルの相等や逆ベクトルの定義を理解し、図の中から探すことができる。 ・例1, 練習1 【思考・判断・表現】 ○ベクトルの加法の性質が成り立つことを、加法の定義を用いて説明することができる。 ・p. 12, 練習3 ○ベクトルの減法の性質が成り立つことを、減法の定義を用いて説明することができる。 ・p. 13, 練習5 ○ベクトルの和、差、実数倍の定義をもとに、それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。 ・練習9 【主体的に学習に取り組む態度】 ○日常の量で、向きと大きさをもつものがあることに興味をもち、それをベクトルで表現しようとする。 ・p. 8	○	○	○	5
				○	○		1
	A ベクトル 【知識及び技能】 ○ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ○数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。また、ベクトルの内積について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・指導内容 ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 また、これらの事柄を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 ・教材 ・一人1 台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ○ベクトルの和の定義を理解し、それを図示できる。 ・練習2 ◎ベクトルの和の計算ができる。 ・例2, 練習4 ○ベクトルの差の定義を理解し、それを図示できる。 ・練習6 ◎ベクトルの差の計算ができる。 ・練習7 ○ベクトルの実数倍の定義を理解し、式で表現できる。 ・例3, 練習8 ◎ベクトルの実数倍の性質をもとに、ベクトルの演算ができる。 ・例4, 練習10 ◎ベクトルの平行条件を理解し、平行なベクトルを求めることができる。 ・例5, 練習12 【思考・判断・表現】 ○ベクトルの平行条件を成分表示にも適用し、成分を定めることができる。 ・例8, 練習17 ○ベクトルの成分と点の座標を明確に区別し、正しく言葉で表現できる。 ・p. 23 Expression ◎点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。 ・例題3, 練習20 【主体的に学習に取り組む態度】 ○成分表示されたベクトルの演算法則を、ベクトルの演算法則から導き出そうとする。 ・p. 21 ○座標平面上の図形の問題について、ベクトルを用いる解法と用いない解法を比較し、条件の過不足を検討することで、それぞれの解法の特徴を検討しようとする。 ・練習19	○	○	○	5
	期末考査			○	○		1

2 学 期	A ベクトル 【知識及び技能】 ○ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ○数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。また，ベクトルの内積について理解し，平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	・指導内容 ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。 また，これらの事柄を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また，ベクトルの内積について理解し，平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 ・教材 ・一人1台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ○位置ベクトルがある条件を満たすような点全体の集合がある図形となることを理解している。 ・p.42 ◎直線のベクトル方程式について，媒介変数を用いて表すことができる。 ・例15，練習40 【思考・判断・表現】 ○直線の方向ベクトルについて，その向きや大きさと媒介変数の値の関係を考察できる。 ・練習39 ◎点が線分AB上に存在する条件を活用して，点Pの存在範囲を求めることができる。 ・応用例題5，練習41～42 【主体的に学習に取り組む態度】 ○図形のベクトル方程式について，点の座標(x, y)についての方程式と関連させて考察し，それらの共通点などを見出そうとする。 ・p.42～43，47～48， p.50 研究	○	○	○	8
	中間考査			○	○		1
	A ベクトル 【知識及び技能】 ○ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ○数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。また，ベクトルの内積について理解し，平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	・指導内容 ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。 また，これらの事柄を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また，ベクトルの内積について理解し，平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 ・教材 ・一人1台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ◎ベクトルの成分表示について，平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し，ベクトルが等しくなるように成分を定めたり，成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。 ・練習6～7 ◎成分表示された空間のベクトルの演算ができる。 ・例5，練習8 ◎座標空間の2点で定められるベクトルを成分表示できる。 ・例6，練習9 【思考・判断・表現】 ○空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表される理由について，平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることから説明できる。 ・p.61 【主体的に学習に取り組む態度】 ○空間のベクトルの成分表示について，平面上のベクトルの成分表示の拡張として捉えようとする。 ・小項目A～C	○	○	○	8
3 学 期	期末考査			○	○		1
	A ベクトル 【知識及び技能】 ○ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ○数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。また，ベクトルの内積について理解し，平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	・指導内容 ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。 また，これらの事柄を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また，ベクトルの内積について理解し，平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 ・教材 ・一人1台端末の活用 ・スタディサプリ ・ロイロノート	【知識・技能】 ◎座標空間における2点間の距離や線分の内分点，外分点の座標，三角形の重心の座標が求められる。 ・練習20～21 ◎座標軸に垂直な平面の方程式が求められるようになる。 ・例9，練習22 ○中心と半径が与えられた球面の方程式を求めることができる。 ・例10，練習24 【思考・判断・表現】 ○ $x=a$ などの方程式が座標軸に垂直な平面を表す理由を正しく理解し，座標軸に平行な直線の方程式について考察できる。 ・練習23 ◎条件から中心と半径を考え，球面の方程式を求めることができる。 ・練習25 ◎球面と平面が交わってできる図形を，連立方程式の解の集合として考察できる。 ・応用例題3，練習26 【主体的に学習に取り組む態度】 ○座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し，座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする。 ・小項目A～C	○	○	○	5
	学年末考査			○	○		合計 35

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 理科 科目 物理基礎

教科：理科 科目：物理基礎 単位数：2 単位
対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組
教科担当者：（A～D・F組：櫻井）（E組：廣瀬）
使用教科書：（数研出版『物理基礎』）
教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。
- 【思考力、判断力、表現力等】習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。
- 【学びに向かう力、人間性等】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。

科目 物理基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	物理量の扱い方	「物理基礎」の学習を始める前に、物理量の表し方やデータの扱い方を理解させる。	【知識・技能】物理量の表し方について理解する。物理量の測定における誤差、有効数字の扱い方について理解する。【思考・判断・表現】人が歩く運動を調べたデータをグラフにまとめ、グラフを見てわかることを説明できる。【主体的に学習に取り組む態度】人が歩く運動を調べたデータからグラフを主体的に作成し、まわりの人と話しあって、グラフを見てわかることを考えようとしている。	○	○	○	1
	運動の表し方 ・速度 ・加速度 ・落体の運動	物体の速さが移動距離を経過時間でわったものであること、速さの単位を学ばせる。等速直線運動についてx-t図とv-t図の特徴と、そのグラフがもたらす情報を理解させる。速度が向きをもった量であることを理解させる。平均の速度を求められるようにし、瞬間の速度はきわめて短い時間の平均の速度であることをx-t図を用いて理解させる。動いている物体から見た他の物体の速度が相対速度であることを示し、相対速度の式を理解させる。 直線運動における加速度の定義を理解させる。運動が同じでも数直線の正の向きの取り方により加速度の正、負が決められることを理解させる。等加速度直線運動における3つの式を理解させ、その具体的な運用に慣れさせる。 落体の運動は、自由落下や鉛直投射などの式が書けるようにし、その運用に慣れさせる。	【知識・技能】 ・物体の速さの式を理解している。等速直線運動の式およびx-t図、v-t図を理解できている。物体の運動を表すには向きが必要であり、速さと速度、移動距離と変位の違いを理解している。平均の速度と瞬間の速度の違いを理解している。直線上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している。 ・加速度の定義や正負の意味を正しく理解している。等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用することができる。 ・自由落下や鉛直投射において、与えられた時刻における高さや速度を与える式の運用ができる。自由落下や鉛直投射はいずれも等加速度直線運動の一種であることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・等速直線運動する物体の運動のようすについて説明できる。動く観測者から見た場合の、観測者と同一直線上を動く物体の運動のようすを説明できる。速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し、それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。 ・自由落下する物体のようすについて説明できる。重力加速度の意味を正しく理解し、落下する物体の運動のようすを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日常の運動から、速さ、時間、進む距離についての関係に興味をもち、速さと速度の違いや、相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。 ・スタート直後の速さの比較によって、加速度を学ぶ意味を理解しようとしている。 ・日常の運動から、落下する物体の運動に興味をもち、自由落下する物体の運動、鉛直投射された物体の運動の表し方を理解しようとしている。	○	○	○	8
	中間考査			○	○		1

1 学 期	運動の法則 ・力とそのはたらき ・力のつりあい ・運動の法則 ・摩擦を受ける運動 ・液体や気体から受ける力	力は、物体の変形や運動状態の変化の原因となるものであり、ベクトル量であることを理解させる。質量m〔kg〕の物体は、mg〔N〕の大きさの重力がはたらいっていること、面から垂直抗力や摩擦力がはたらくことを理解させる。弾性力についてはフックの法則とその式を扱い、ばね定数の意味について理解させる。力はベクトル量で、合成や分解ができることを理解させる。また、分解したときのx成分とy成分を求められるようにする。物体にいくつかの力がはたらくとき、これらのx成分、y成分のつりあいの式が立てられるようにする。作用反作用の法則を理解し、つりあう2力の関係と作用反作用の2力の関係との違いが分かるようにする。慣性の法則では、物体にはたらく力の合力が0であるとき、物体は等速直線運動をし続けることを理解させる。運動方程式では、物体は力を受けると加速すること、生じる加速度の大きさは質量に反比例し、力の大きさに比例することを理解させる。1Nがどのように定義されたかを理解させる。物体は落下するときに加速度を生じることから、運動方程式により、重力がはたらいっていることがわかること、重力の大きさがmg〔N〕であることを理解させる。どのようなときに静止摩擦力が生じるのか、また最大摩擦力の大きさが面の状態を表す静止摩擦係数と垂直抗力の積で表されること、動摩擦力の大きさについても動摩擦係数と垂直抗力の積で表されることを理解させる。液体や気体の中では物体は圧力を受けることや、圧力の式とその単位について理解させる。また、液体や気体中にある物体には浮力がはたらくこと、および、浮力の大きさについてアルキメデスの原理が成り立つことを理解させる。空気中を落下する物体には、空気抵抗がはたらくことを理解させる。また、学習状況に応じて、「発展」で「終端速度の式」についても扱う。	【知識・技能】 ・重力、垂直抗力、摩擦力、糸が引く力、弾性力について、理解できている。 ・力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。注目する物体にはたらく力が指摘でき、つりあいの式が立てられる。作用・反作用の2力とつりあいの2力を区別して考えることができる。 ・物体が力を受けるとき(あるいは受けないとき)、運動状態はどのようなになるか、逆に、物体の運動状態からどのような力がはたらいっているかを指摘できる。さまざまな運動をしている物体について、運動方程式を立てて考えることができる。 ・注目する物体に摩擦力はどの向きに現れるか、また最大摩擦力の大きさは2物体間の面の状態を表す静止摩擦係数μと、垂直抗力Nとの積で表されることを理解している。静止摩擦力を用いた力のつりあいの式を立てたり、動摩擦力を用いた運動方程式を立てることができる。 ・圧力を求める式を理解できている。水圧を求める式を理解し、水中にある物体が静止しているとき、物体にはたらく力のつりあいの式を立てることができる。水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。 【思考・判断・表現】 ・フックの法則とばね定数の意味を理解し、グラフからはばね定数を読み取ることができる。重力の大きさは物体の質量と重力加速度の大きさとの積であり、運動の状態によらないことを説明できる。力の表し方を理解し、「1N」はどのような力が説明できる。 ・作用・反作用の2力とつりあいの2力の違いを理解し、力のつりあいの式を考えたり、それぞれの2力の間の関係について説明できる。 ・慣性の法則、運動方程式が理解でき、問題解決にあたって式の運用が正しくできる。運動方程式を用いて、物体の運動を説明できる。 ・摩擦力がどのような力かを理解し、運動を妨げる向きにはたらく運動について考えることができる。物体にはたらく摩擦力について説明できる。 ・水中にある物体には、どのような水圧が加わるか、またどのような浮力がはたらくかを正しく理解し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・見ること、触ることができない「力」に対して、どのようにして力の存在がわかるのか、また力にはどのような種類があるのかについて考えようとしている。 ・力が合成・分解して表されることに興味をもち、「力がつりあう」とはどういうことかを理解しようとしている。「作用・反作用」と「つりあい」の2力との違いについて、考えようとしている。 ・物体の運動状態は、受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心をもち、理解しようとしている。 ・摩擦力がないときと比較するなどして、どのようなときに静止摩擦力や動摩擦力が現れるか、またそのときの物体の運動について、興味・関心をもち考えようとしている。 ・日常の現象などを通して、水中や空気中で圧力があることに関心を寄せ、それらの圧力はどのようにしてはかることができるか、そもそも圧力とは何か、ということを考えようとしている。	○	○		14
期末	期末			○	○		1

2 学 期	仕事と力学的エネルギー ・仕事 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギー保存則	仕事の定義を正確に把握させる。物体の移動方向に垂直にはたらく力は仕事をしないこと、移動の向きと力の向きが逆のときは仕事は負になること、正・負の仕事の意味について理解させる。 $F \times$ 図の面積が仕事の大きさを表すことを理解させる。仕事の原理では、加える力の大きさが小さくなくても必要な仕事が一一定であることを理解させる。単位時間にした仕事の仕事率であることを理解させる。 運動エネルギーの式を導けるようにする。また、物体の運動エネルギーの変化が物体にされた仕事に等しいことを理解させる。 高い所にある物体は重力による位置エネルギーをもっていること、重力による位置エネルギーが mgh [J] であること、基準水平面のとり方により、正の場合と負の場合があることを理解させる。弾性力による位置エネルギーは、 $1/2 \times kx^2$ の式で表され、ばねが自然の長さのときが基準 (0) であることを理解させる。 力学的エネルギー保存則は、物体にはたらく力が保存力だけのとき、あるいは保存力以外の力がはたらいていてもその力が物体に対して仕事をしないときに成り立つことを理解させる。	【知識・技能】 ・仕事、仕事率を計算して求めることができる。物体に対して力がはたらいていても、仕事がないときもあり、それがどのようなときであるかを理解している。「仕事の原理」を仕事を計算して求めたものを比較することにより、理解している。仕事率 P は「 W/t 」だけでなく、「 Fv 」でも求められることを理解している。 ・運動エネルギーが $1/2 \times mv^2$ であることを理解している。運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解している。 ・重力による位置エネルギーを計算することができる。弾性力による位置エネルギーを計算することができる。物体が基準点まで移動するときに保存力がある仕事は、位置エネルギーであることを確認できる。 ・力学的エネルギー保存則について興味関心をもち、理解しようとしている。 【思考・判断・表現】 ・物体に対して力がはたらいていても、仕事がないときもあり、それがどのようなときであるかを説明できる。「仕事の原理」を理解し、道具を用いたときに必要な仕事はどうなるかを説明できる。 ・運動エネルギーがどのようなものかを理解し、説明できる。運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを用いて、物体の運動を説明できる。 ・状態が異なる場合の位置エネルギーを、比較して考えることができる。重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーについて説明することができる。 ・力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定性的に考えることができる。力学的エネルギー保存則を用いて、運動する物体のもつ運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの変化のようすを説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日常用いる「仕事」と物理で使う「仕事」の違いを理解し、物理でいうところの「仕事」について理解しようとしている。 ・位置エネルギーは、運動エネルギーのように動きがあり目立つものではないが、仕事をする能力を「秘めて」いることに興味をもち、理解しようとしている。 ・重力による位置エネルギーを調べる実験に主体的に取り組んでいる。 ・力学的エネルギー保存則について興味関心をもち、理解しようとしている。	○	○	○	10
	中間考査			○	○		1
	熱とエネルギー ・熱と物質の状態 ・熱と仕事	熱運動について理解させ、温度は、原子や分子の熱運動の激しさを示すものであり、熱運動が停止するときの温度を 0 とする絶対温度について理解させる。絶対温度 (K) とセルシウス温度 (°C) との関係性を理解させる。熱の移動がエネルギーの移動であることし、熱がエネルギーの一形態であること、熱平衡、熱の移動、熱量、および、これらの関係についても理解させる。熱容量や比熱の定義を理解させ、温度変化に必要な熱量を、熱容量や比熱を用いて表すことができるようにする。また、外部との熱のやりとりがない場合、熱量が保存されることを理解させる。 固体、液体、気体の 3 つの状態が存在し、いずれの状態でも熱運動があること、温度が上がると物体の体積が大きくなることを理解させる。 熱がエネルギーの一形態であること、気体の内部エネルギーは、温度が高いほど、また分子の数が多きほど大きくなることを理解させる。また、物体の内部エネルギーを変化させる方法は 2 種類あり、それは熱することと仕事をすることであること (熱力学第一法則) を理解させる。自然界のエネルギーの変換では不可逆変化が伴うことを示し、それに関連して熱機関の効率について理解させる。	【知識・技能】 ・温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解されている。熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。物質が、固体→液体、液体→気体になる際の、熱のやりとりについて理解している。 ・仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している。熱機関と熱機関の効率について理解している。 【思考・判断・表現】 ・日常的な事象を、学習内容に照らし合わせて説明できる。 温度や熱容量、比熱はどのような物理量が、自分の言葉で説明できる。水の状態図から情報を読み取り、日常的な事象について理由などを推測し、説明することができる。 ・日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。不可逆変化とはどのような変化かを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心をもち、理解しようとしている。 ・熱と仕事の関係について興味関心をもち、理解しようとしている。	○	○	○	7
	波の性質 ・波と媒質の運動 ・波の伝わり方	波動とは、媒質の 1 点に起こった振動が、媒質中を少しずつ遅れて伝わっていく現象であることを理解させる。波を表す要素は振幅、周期、振動数、波長そして波の伝わる速さである。媒質の振動の方向に対して垂直な方向へ伝わる波形が横波、振動と同じ方向へ伝わる波形が縦波である。 2 つの波がある点に同時に達したときの変位は、2 つの波が単独に達したときの変位の和であることを理解させる。一直線上で要素の等しい 2 つの波形が逆向きに進むと、重なりあって定在波ができる。この定在波の媒質は、場所によって振幅が異なることを理解させる。ウェーブマシンにパルスを送ったとき、自由端では山の入射波は山として反射されるが、固定端では山は谷として反射されることを理解させる。	【知識・技能】 ・波の発生原理や基本事項を理解している。縦波と横波の違いを理解している。縦波を横波の形で表現できている。 ・定在波の生じるしくみを理解している。ウェーブマシンの実験・観察を通して、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解している。 【思考・判断・表現】 ・波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。波に基本事項について説明できる。与えられた情報を正しく読み取り、問いに答えられている。 ・定在波を発生させる条件を正しく理解し、説明できる。 固定端と自由端での波の反射について、その違いを明確に説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。 ・波が衝突や反射するときのようになるか、興味を持って、自分の考えを述べることができる。	○	○	○	6
	期末考査			○	○		1

3 学 期	音 ・音の性質 ・発音体の振動と共振共鳴	音波は空気を媒質とする縦波である。 音の高さ・大きさ・音色については定性的に説明する。空気中を伝わる音の速さは、温度により異なり温度が高いほど音の速さは速くなる。うなりの現象を実験によって観察させ、理由を理解させる。 弦の振動は、弦の両端を節とする定在波であることを、観察をもとにして理解させる。気柱の固有振動は開端を腹、閉端を節とする定在波であることを把握させる。振動体にその固有振動の周期と等しい周期で変化する外力を加えると、振動体は大きく振動するようになる(共振・共鳴)ことを理解させる。	【知識・技能】 ・日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解している。うなりについて、音の干渉の知識を用いて定量的に扱うことができる。 ・弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解している。気柱の振動の際、管内に生じる定在波の腹は管口より外にできることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・音を伝える際、空気などの媒質が必要であることを説明できる。音の特徴づける3つの要素について説明できる。うなりとはどのような現象であることを説明できる。 ・弦楽器の音にはどのようなことが関係しているかを、これまでの学習内容を踏まえて考えることができる。倍音とはどのような振動数の音であるかを説明できる。気温と管楽器からの音の振動数にはどのような関係があるかを考察し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・音に関する身近な問いかけについて、自分の考えを述べることができる。身近な音の現象に興味をもち、基本事項について理解しようとしている。 ・弦楽器や管楽器について、どのようにして音の高さを変えているかについて、自分の考えを述べるができる。音に関する問いかけについて、自分の言葉で表そうとしている。	○	○	○	6
	物質と電気 ・電気の性質 ・電流と電気抵抗 ・電気とエネルギー	静電気現象の観察からはじめる。物体が帯電するしくみでは、帯電は電子の過不足から生じ、電気現象は電子が主役であることを認識させる。 電流の向きと大きさ、電圧・電流・電気抵抗にオームの法則が成り立つことも理解させる。直列・並列接続の特徴を理解させる。 導体の両端に電圧を加えると導体の温度が上がることを理解させる。またその際に発生する熱をジュール熱とよぶこと、および、発熱量が電流と電圧と時間の積で表されることを理解させる。電流がする仕事(電力量) W が qV 〔J〕に等しいことを理解させ、これが発生するジュール熱に等しいこと、および、電流が単位時間にする仕事率(電力) P 〔W〕について理解させる。	【知識・技能】 ・物体の帯電するしくみについて理解している。導体・不導体、半導体の違いについて理解している。 ・電流と電圧の基礎について理解している。オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解している。 ・ジュールの法則について理解している。電力量と電力の意味(およびその公式)について理解している。 【思考・判断・表現】 ・ガラス棒を絹などでこすった際に、それぞれどのような帯電状態になるかを説明できる。 ・オームの法則を理解し、I-Vグラフより、金属の抵抗値を求めることができる。家庭にきている電気の電圧・電流の値から、使用できる電気器具の数の上限を類推することができる。金属の抵抗率が小さいほど電気をロスなく通しやすく、大きいほど熱として消費しやすいことを理解している。ダイオードの電流・電圧グラフから、さまざまな状況の抵抗値を類推できる。電気回路における、接続ごとの電流、電圧の大きさについて適切に理解しており、説明できる。導体の抵抗値は、形状とどのような関係があるかを説明できる。家庭内電源が、並列接続である理由を考察できる。 ・ジュール熱について、電流と電圧とどのような関係にあるかを説明できる。電圧を一定にしたとき、消費電力と抵抗値は反比例の関係にあることを説明できる。抵抗率、消費電力について理解しており、それをもとに考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近な静電気現象について、なぜそうなるかを述べることができる。 ・電気回路の抵抗の接続のしかたを変えたとき、抵抗に加わる電圧と流れる電流の値がどのようなかについて、主体的に考えることができる。 ・日常で使う電気を踏まえて、ジュール熱や電力について、主体的に考えることができる。	○	○	○	6
	磁場と交流 ・電流と磁場 ・交流と電磁波	磁石の性質、磁力線、直線電流が周囲につくる磁場、円形電流が円の中心につくる磁場、ソレノイドがその内部につくる磁場の向きについて理解させる。電流が磁場から受ける力、直流モーターのしくみを理解させる。コイル内に磁石を出し入れさせたときに、検流計の針が振れる電磁誘導の現象を理解させる。 交流の電圧は時間的に変化する。その電圧の波形には最大値や0となる瞬間があることを理解させる。変圧器は交流の電圧を変えていること、および、一次コイルと二次コイルの交流電圧の比は、一次コイルと二次コイルの巻数の比に等しいことを理解させる。電磁波には電波、赤外線、可視光線、紫外線、X線、 γ 線が含まれ、波の性質をもっていることを理解させる。	【知識・技能】 ・直線電流、円形電流、ソレノイドのつくる磁場の向きを判断することができる。電磁誘導の基礎を理解している。 ・交流電圧の基本について理解している。変圧器と送電の基本について理解している。電磁波の振動数と波長の関係を理解している。また、ラジオ放送やテレビ放送、携帯電話など、身近に使われている電磁波の周波数についても把握している。 【思考・判断・表現】 ・電流と磁場の関係について説明できる。モーターの回る原理について説明できる。身近な電磁誘導の利用例について、説明できる。 ・直流と交流の違いについて理解しており、それを説明することができる。送電における電力損失の理由を理解しており、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・モーターの回転する機構について興味をもち、主体的に原理を考えることができる。電流の流れる向きと磁場の向きの関係について、主体的に考えることができる。 ・直流と交流の違いや送電時の工夫について、主体的に考えることができる。	○	○	○	3
	学年末考査			○	○		1

3 学 期	エネルギーの利用 ・エネルギーの移り変わり ・エネルギー資源と発電	光エネルギー、化学エネルギー、核エネルギーとは何か、またそれらのエネルギーの具体的な利用について学習させる。 エネルギー資源には一次エネルギーと二次エネルギーがあること、そして二次エネルギーの一種である電気エネルギーを得るための発電の方法について、そのしくみと特徴を学習させる。	【知識・技能】 ・エネルギーにはどのような種類があるか、また、身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解している。 ・エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し、それらの長所と短所を理解している。原子力発電に関連して、原子核の構成などを理解している。 【思考・判断・表現】 ・ある事象に対して、どのようなエネルギー変換が行われているかを考察し、説明することができる。 ・再生可能エネルギーについて、枯渇性エネルギーとの違いを考え、説明できる。火力、原子力、水力、風力の発電の共通点について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・太陽電池などでどのように電気エネルギーを得ているのかを主体的に考えることができる。 ・新しいエネルギーである再生可能エネルギーに興味をもち、さまざまな発電方法における共通点を探すなど、主体的に取り組むことができる。	○	○	○	2
	物理学の拓く世界	スポーツ、防災、自動車のような身近な技術を題材に、「物理基礎」の学習内容との関連を理解させる。また、職業に就いている人の声を紹介し、将来の進路について考える一助となるようにする。	【知識・技能】 ・物理基礎で学習してきた内容が、スポーツ、防災、自動車とどのように関連しているかについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・私たちの暮らしを支える技術に、高校で学んだ物理学の知識がどのように活用されているかを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・スポーツや防災、自動車などの身近な科学技術に、物理学がどのように活用されているかについて興味をもつ。	○	○	○	2
							70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 理科 科目 化学

教科：理科

科目：化学

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～D組

教科担当者：（AB組：吉田 雪絵）（CD組：吉田 雪絵）

使用教科書：啓林館「i版 化学基礎」（化基707）、実教出版「化学 academia」（ ）

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】 自然の事物・現象に対する概念や原理、法則への理解を深めるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象に関して、理科の見方・考え方を活用して論理的に考察する力、科学的な表現を用いて明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に関して、主体的に関わり科学的に探究しようとする態度、視野を広く持ち科学的な根拠に基づいた多面的な判断をしようとする態度、それらの過程を振り返って自身の行動を評価・改善しようとする態度を養う。

科目 化学

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、自然の事物・現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うとともに、論理的に考え科学的な見方・考え方をを用いて表現することができる。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第2部 物質の変化 第3章 酸化還元反応 ①酸化還元反応の仕組みを、酸素や水素、電子の授受、酸化数と関連付けて理解することができる。 ②主な酸化剤と還元剤の反応をe-を含むイオン反応式で表し、その組合せで酸化還元反応式の表し方を理解することができる。 ③酸化反応と還元反応を酸素や水素の授受から電子の授受に発展させて関連付け、酸化数を用いて考えることができる。 ④酸化還元反応の仕組みについて考えることができる。	・酸化と還の定義を酸素、水素、電子の授受によって成立していることを整理する。 ・各原子やイオンでの酸化数の考え方を学習し酸化と還元を酸化数を用いて表現する。 ・酸化剤と還元剤の反応を整理し、半反応式を用いた酸化還元反応を作成する。 ・二酸化硫黄や過酸化水素などのような酸化剤と還元剤のどちらの性質を有するような物質の扱い方を学習する、 ・ハロゲンの単体などには酸化力に差があり、強さに応じて役割が変わることがある。	【【知識及び技能】】 ①酸化還元反応の仕組みを、酸素や水素、電子の授受、酸化数と関連付けて理解することができる。 ②主な酸化剤と還元剤の反応をe-を含むイオン反応式で表し、その組合せで酸化還元反応式の表し方を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①酸化反応と還元反応を酸素や水素の授受から電子の授受に発展させて関連付け、酸化数を用いて考えることができる。 ②酸化還元反応の仕組みについて考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みを、酸素や水素の授受、酸化数と関連付けて理解し、その利用例について調べようとしている。 ②酸化と還元を振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。 ③酸化剤と還元剤を振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	第2部 物質の変化 第3章 酸化還元反応 ①適切な器具や指示薬を用いた酸化剤と還元剤の量的関係について理解することができる。 ②金属のイオン化傾向による反応性の違いを理解することができる。 ③酸化還元反応の利用例とその反応について考え、電池の仕組みや電気分解について理解する。 ④酸化還元反応の反応式を表すことができる。 ⑤金属の反応性の違いをイオン化傾向との関連で考えることができる。 ⑥酸化還元反応を利用した、電池の簡単な構造や電気分解について考えることができる。 第4章 有機化合物(実教出版) 1節 有機化合物とその構造 ⑦有機化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解する。	・酸化還元反応の化学反応式を作成するだけでなく、その量的関係についても扱う。 ・金属のイオン化傾向について学習し、金属のイオン化列について理解を深め、日常生活でどのように応用されているか学習する。 ・金属の参加還元反応を整理し、様々な金属の反応について整理する。 ・電池の仕組みを理解し、電子の物質質量などを用いて実際に流れる電流などを表現する、 ・金属の電解精錬について理解を深める。 ・有機化合物とは何かを学習し、日常生活での用途等を扱う。 ・官能基について整理する。 ・元素分析法について理解し、有機化合物の分子量等を決定する。	【【知識及び技能】】 ①適切な器具や指示薬を用いた酸化剤と還元剤の量的関係について理解することができる。 ②金属のイオン化傾向による反応性の違いを理解することができる。 ③酸化還元反応の利用例とその反応について考え、電池の仕組みや電気分解について理解する。 ④炭化水素の分類とその反応性の関係や構造異性体の関係を理解している。 ⑤有機化合物の成分元素の確認や組成式・分子式・構造式の決定について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ①酸化還元反応の反応式を表すことができる。 ②金属の反応性の違いをイオン化傾向との関連で考えることができる。 ③酸化還元反応を利用した、電池の簡単な構造や電気分解について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①電池の仕組みについて興味をもち酸化還元反応との関連や原理について調べようとする。 ②酸化剤と還元剤を振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。 ③人間生活において、酸化還元反応が身近に起こっていることを調べようとする。 ④有機化合物に関する性質や反応に関する事物・現象に関心をもち、その構造と性質や反応性の関係について意欲的に探究しようとする。 ・炭化水素の分類とその反応性の関係や構造異性体の関係を理解している。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

2 学 期	2節 脂肪族炭化水素 3節 酸素を含む脂肪族化合物	・アルカンについて整理、理解する。 ・構造異性体について理解する。 ・置換反応について理解する。 ・シクロアルカンについて整理、理解する。 ・アルケンについて整理、理解する。 ・幾何異性体について理解し、様々な構造異性体と区別しながら適切な表現ができる。 ・付加反応について理解する。 ・シクロアルケンについて理解する。 ・アルキンについて整理、理解する。 ・エーテルの命名が正しく行える。 ・様々なエーテルの性質を理解する。 ・アルデヒド・ケトンの命名が正しく行える。 ・様々なアルデヒド・ケトンの性質を理解する。 ・カルボン酸の命名が正しく行える。 ・様々なカルボン酸の性質を理解する。 ・エステル命名が正しく行える。 ・様々なエステルの性質を理解する。 ・分子式から有機化合物の構造決定が行える。	【知識・技能】 ①脂肪族化合物の性質や反応性について、日常生活に関連させて理解している。 ②脂肪族化合物の性質や反応性について、観察、実験の基本操作や記録の仕方を知得するとともに、実験器具の選定や扱い方が身についている。 ③観察、実験の過程や結果から生じる問題や発見した事項について、自らの考えを導き出した、新しい課題を設定することができる。 【思考・判断・表現】 ①炭化水素、官能基をもつ有機化合物の性質や反応性が構造に特徴づけられることを見出し、構造異性体、鏡像異性体などを論理的に考察し、説明することができる。 ②構造式によって、その化合物の性質や反応性について推論することができる。 ③脂肪族化合物に関する性質や反応に関する事象・現象に関心をもち、その構造と性質や反応性の関係について意欲的に探究しようとする。 ④脂肪族化合物について観察、実験を行うとともに、それらを日常生活と関連させて探究しようとする。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第4章 有機化合物 4節 芳香族化合物	・ベンゼンの構造や芳香族炭化水素に関連する知識を整理、理解する。 ・芳香族炭化水素の反応を整理、理解する。 ・フェノール類の性質及び反応を整理、理解する。 ・芳香族カルボン酸などの性質及び反応を整理、理解する。 ・窒素を含む芳香族化合物の性質及び反応を整理、理解する。 ・方向性化合物の混合物を正しい分離操作を理解する。	【知識・技能】 ①芳香族化合物の分類とその反応性の関係や異性体、配向性の関係を知得している。 ②芳香族化合物の性質が置換基により特徴づけられることを具体的な物質で理解し、さらに芳香族化合物相互の関連性について理解している。 ③芳香族化合物の性質や反応性について、日常生活に関連させて理解している。 ④芳香族化合物の性質や反応性について、観察、実験の基本操作や記録の仕方を知得するとともに、実験器具の選定や扱い方が身についている。 【思考・判断・表現】 ①観察、実験の過程や結果から生じる問題や発見した事項について、自らの考えを導き出した、新しい課題を設定することができる。 ②ベンゼン、置換基をもつ芳香族化合物の性質や反応性が構造に特徴づけられることを見出し、異性体、配向性などを論理的に考察し、説明することができる。 ③構造式によって、その化合物の性質や反応性について推論することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①芳香族化合物に関する性質や反応に関する事象・現象に関心をもち、その構造と性質や反応性の関係について意欲的に探究しようとする。 ②芳香族化合物について観察、実験を行うとともに、それらを日常生活と関連させて探究しようとする。	○	○	○	13
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	第5章 高分子化合物 1節 高分子化合物 2節 天然高分子化合物	・様々な重合反応について整理、理解する。 ・糖類の命名、構造式が正しく表現する。 ・糖類の反応や性質などを整理、理解する。 ・タンパク質はα-アミノ酸で構成されていることを理解する。 ・α-アミノ酸の構造式が正しく書ける。 ・双性イオンや等電点の関連性を理解する。 ・アミノ酸やタンパク質の反応を正しく理解する。 ・構造未知のタンパク質の構造を決定する。	【知識・技能】 ①天然高分子化合物、合成高分子化合物の構造や性質について理解し、知識を身につけている。 ②天然高分子化合物、合成高分子化合物の性質や反応について、観察、実験の基本操作や記録の仕方を知得するとともに、実験器具の選定や扱い方が身についている。 ③観察、実験の過程や結果から生じる問題や発見した事項について、自らの考えを導き出した、新しい課題を設定することができる。 【思考・判断・表現】 ①天然高分子化合物、合成高分子化合物の性質や反応性、その構造および結合の状態に特徴づけられる面があることを見出し、いくつかの天然高分子化合物、合成高分子化合物について具体的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①天然高分子化合物、合成高分子化合物に関する性質や反応に関する事象・現象に関心をもち、その構造と性質や反応性の関係について意欲的に探究しようとする。また、観察・実験を行い探究しようとする。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1 合計

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育（球技女子）

教科： 0 科目： 体育（球技女子） 単位数： 2 単位
対象学年組：第 1 学年 A 組～ F 組
教科担当者：（A～F組：中村 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）
使用教科書：（ ）
教科 0 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解すると共に、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育（球技女子） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することが出来るようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元 球技

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元:バスケットボール 【知識及び技能】 ゴール型では安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって、ゴール前への進入などから攻防をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決へ向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとする等や、健康・安全を確保する。	○授業で扱う内容や成績の付け方などガイダンスをする。 ○個人技や基礎技術を身につける。 ・パス、ドリブル・シュート ○チームプレイ ・連携したオフェンス・ディフェンス ・スペースのとり方 ○試合 ・諸ルールの説明 ・チームごとの作戦、役割分担	【知能及び技能】 ・ボール操作やボールを持たないときの動き及び攻防に着目し、自己に適した課題と関連づけている。 ・合理的な運動の仕方の理解を自分の課題と関連づけ、活用したり応用したりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・球技の特性を踏まえて、動きなどの改善についてのポイントを発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全についての自己や仲間の取り組み方などの課題を発見したりしている。 ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 【学びに向かう力・人間性等】 ・自己や仲間の課題に応じた練習方法を選択する学習などに自主的に取り組むことができる。 ・単に決められたルールやマナーを守るだけではなく、自らの意志で大切にしようとしている。 ・練習や記録会などで、仲間と互いに合意した役割に責任をもって自主的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	b 単元:バレーボール 【知識及び技能】 ネット型では役割に応じたボール操作と空間を作り出すなどの動きによって、ゴール前への進入などから攻防をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決へ向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとする等や、健康・安全を確保する。	○授業で扱う内容や成績の付け方などガイダンスをする。 ○個人技や基礎技術を身につける。 ・パス、サーブ・スパイク ○チームプレイ ・三段攻撃 ・レシーブフォーメーション ・ローテーション ○試合 ・諸ルールの説明 ・チームごとの作戦、役割分担	【知能及び技能】 ・ボール操作やボールを持たないときの動き及び攻防に着目し、自己に適した課題と関連づけている。 ・合理的な運動の仕方の理解を自分の課題と関連づけ、活用したり応用したりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・球技の特性を踏まえて、動きなどの改善についてのポイントを発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全についての自己や仲間の取り組み方などの課題を発見したりしている。 ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 【学びに向かう力・人間性等】 ・自己や仲間の課題に応じた練習方法を選択する学習などに自主的に取り組むことができる。 ・単に決められたルールやマナーを守るだけではなく、自らの意志で大切にしようとしている。 ・練習や記録会などで、仲間と互いに合意した役割に責任をもって自主的に取り組もうとしている。	○	○	○	7

2 学 期	C 単元:ソフトボール 【知識及び技能】 ベースボール型では基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決へ向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとする等や、健康・安全を確保する。	○授業で扱う内容や成績の付け方などガイダンスをする。 ○個人技や基礎技術を身につける。 ・キャッチ、スローイング、バッティング ○チームプレイ ・走塁 ・フォースプレイ、タッチプレイ ○試合 ・諸ルールの説明 ・チームごとの作戦、役割分担	【知能及び技能】 ・ボール操作やバッティング、走塁や守備位置と動き及び攻防に着目し、自己に適した課題と関連づけている。 ・合理的な運動の仕方の理解を自分の課題と関連づけ、活用したり応用したりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・球技の特性を踏まえて、動きなどの改善についてのポイントを発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全についての自己や仲間の取り組み方などの課題を発見したりしている。 ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 【学びに向かう力・人間性等】 ・自己や仲間の課題に応じた練習方法を選択する学習などに自主的に取り組むことができる。 ・単に決められたルールやマナーを守るだけではなく、自らの意志で大切にしようとしている。 ・練習や記録会などで、仲間と互いに合意した役割に責任をもって自主的に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	D 単元:バスケットボール 【知識及び技能】 ゴール型では安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって、ゴール前への進入などから攻防をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決へ向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとする等や、健康・安全を確保する。	○授業で扱う内容や成績の付け方などガイダンスをする。 ○個人技や基礎技術を身につける。 ・パス、ドリブル・シュート ○チームプレイ ・連携したオフェンス・ディフェンス ・スペースのとり方 ○試合 ・諸ルールの説明 ・チームごとの作戦、役割分担	【知能及び技能】 ・ボール操作やボールを持たないときの動き及び攻防に着目し、自己に適した課題と関連づけている。 ・合理的な運動の仕方の理解を自分の課題と関連づけ、活用したり応用したりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・球技の特性を踏まえて、動きなどの改善についてのポイントを発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全についての自己や仲間の取り組み方などの課題を発見したりしている。 ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 【学びに向かう力・人間性等】 ・自己や仲間の課題に応じた練習方法を選択する学習などに自主的に取り組むことができる。 ・単に決められたルールやマナーを守るだけではなく、自らの意志で大切にしようとしている。 ・練習や記録会などで、仲間と互いに合意した役割に責任をもって自主的に取り組もうとしている。	○	○	○	8
3 学 期	持 久 走						合計
							36

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育（球技男子）

教科： 0 科目： 体育（球技男子） 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（A～F組：飯田 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（ ）

教科 0 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解すると共に、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育（球技男子） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することが出来るようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元 球技

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元:ハンドボール 【知識及び技能】 ゴール型では安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって、ゴール前への進入などから攻防をすることが出来る。 【思考力、判断力、表現力等】 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決へ向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。。 【学びに向かう力、人間性等】 ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとする等や、互いに助け合い教え合おうとする等や、健康・安全を確保する。。	○授業で扱う内容や成績の付け方などガイダンスをする。 ○個人技や基礎技術を身につける。 ・パス、ドリブル・シュート ○チームプレイ ・連携したオフェンス・ディフェンス ・サイドを利用した攻撃 ・ゾーンディフェンス ○試合 ・諸ルールの説明 ・チームごとの作戦	【知能及び技能】 ・ボール操作やボールを持たないときの動き及び攻防に着目し、自己に適した課題と関連づけている。 ・合理的な運動の仕方の理解を自分の課題と関連づけ、活用したり応用したりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・球技の特性を踏まえて、動きなどの改善についてのポイントを発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全についての自己や仲間の取り組み方などの課題を発見したりしている。 ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝ええている。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 【学びに向かう力・人間性等】 ・自己や仲間の課題に応じた練習方法を選択する学習などに自主的に取り組むことができる。 ・単に決められたルールやマナーを守るだけではなく、自らの意志で大切にしようとしている。 ・練習や記録会などで、仲間と互いに合意した役割に責任をもって自主的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	B 単元:サッカー 【知識及び技能】 ゴール型では安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって、ゴール前への進入などから攻防をすることが出来る。 【思考力、判断力、表現力等】 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決へ向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。。 【学びに向かう力、人間性等】 ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとする等や、互いに助け合い教え合おうとする等や、健康・安全を確保する。。	○授業で扱う内容や成績の付け方などガイダンスをする。 ○個人技や基礎技術を身につける。 ・パス、ドリブル・シュート ○チームプレイ ・連携したオフェンス・ディフェンス ・スペースのとり方 ○試合 ・諸ルールの説明 ・チームごとの作戦、役割分担	【知能及び技能】 ・ボール操作やボールを持たないときの動き及び攻防に着目し、自己に適した課題と関連づけている。 ・合理的な運動の仕方の理解を自分の課題と関連づけ、活用したり応用したりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・球技の特性を踏まえて、動きなどの改善についてのポイントを発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全についての自己や仲間の取り組み方などの課題を発見したりしている。 ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝ええている。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 【学びに向かう力・人間性等】 ・自己や仲間の課題に応じた練習方法を選択する学習などに自主的に取り組むことができる。 ・単に決められたルールやマナーを守るだけではなく、自らの意志で大切にしようとしている。 ・練習や記録会などで、仲間と互いに合意した役割に責任をもって自主的に取り組もうとしている。	○	○	○	7

2 学 期	C 単元:バレーボール 【知識及び技能】 ネット型では役割に応じたボール操作と空間を作り出すなどの動きによって、ゴール前への進入などから攻防をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決へ向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとする等や、健康・安全を確保する。	○授業で扱う内容や成績の付け方などガイダンスをする。 ○個人技や基礎技術を身につける。 ・パス、サーブ・スパイク ○チームプレイ ・三段攻撃 ・レシーブフォーメーション ・ローテーション ○試合 ・諸ルールの説明 ・チームごとの作戦、役割分担	【知能及び技能】 ・ボール操作やボールを持たないときの動き及び攻防に着目し、自己に適した課題と関連づけている。 ・合理的な運動の仕方の理解を自分の課題と関連づけ、活用したり応用したりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・球技の特性を踏まえて、動きなどの改善についてのポイントを発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全についての自己や仲間の取り組み方などの課題を発見したりしている。 ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝ええている。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 【学びに向かう力・人間性等】 ・自己や仲間の課題に応じた練習方法を選択する学習などに自主的に取り組むことができる。 ・単に決められたルールやマナーを守るだけではなく、自らの意志で大切にしようとしている。 ・練習や記録会などで、仲間と互いに合意した役割に責任をもって自主的に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	D 単元:バスケットボール 【知識及び技能】 ゴール型では安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって、ゴール前への進入などから攻防をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決へ向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとする等や、健康・安全を確保する。	○授業で扱う内容や成績の付け方などガイダンスをする。 ○個人技や基礎技術を身につける。 ・パス、ドリブル・シュート ○チームプレイ ・連携したオフェンス・ディフェンス ・スペースのとり方 ○試合 ・諸ルールの説明 ・チームごとの作戦、役割分担	【知能及び技能】 ・ボール操作やボールを持たないときの動き及び攻防に着目し、自己に適した課題と関連づけている。 ・合理的な運動の仕方の理解を自分の課題と関連づけ、活用したり応用したりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・球技の特性を踏まえて、動きなどの改善についてのポイントを発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全についての自己や仲間の取り組み方などの課題を発見したりしている。 ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝ええている。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 【学びに向かう力・人間性等】 ・自己や仲間の課題に応じた練習方法を選択する学習などに自主的に取り組むことができる。 ・単に決められたルールやマナーを守るだけではなく、自らの意志で大切にしようとしている。 ・練習や記録会などで、仲間と互いに合意した役割に責任をもって自主的に取り組もうとしている。	○	○	○	8
3 学 期	持久走						合計
							28

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育（水泳）

教科： 0 科目： 体育（水泳） 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者： （A～F組：飯田 ） （A～F組：中村 ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書： （ ）

教科 0 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解すると共に、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育（水泳） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することが出来るようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元 水泳

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】 ○知識 ・技術の名称や行い方、運動観察の方法などをについて理解している。 ○技術 ・背泳ぎでは、ブルは体側の位置から肘を伸ばし、肩を支点にまっすぐに入手し、キックは足首をしっかりと使い、一定のリズムで力強く蹴り、ローリングをしながら伸びのある泳ぎをすることができる。 ・バタフライでは、ブルとキックのタイミングに合わせて二蹴り一かきのリズムで大きな伸びのある泳ぎをすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・泳法などの改善についてのポイントを発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全についての自己や仲間の取り組み方などの課題を発見し書き残したりしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自己や仲間の課題に応じた練習方法を選択する学習などに自主的に取り組んでいる。 ・自己の体力や技能の程度に応じて泳ぐ。 ・無理な潜水は意識障害の危険があるため行わない。	A 単元 ○水泳の授業を受けるに当たっての諸注意や成績の付け方などガイダンスを行う。 ○水慣れ後、2.5mを自己の課題に応じて泳ぐ。 ・背泳ぎでは、ブルの入手後手のひらで水をとらえ、肘を60～90度程度曲げて体の横から水を大腿の方へ押す。 ・バタフライでは前方から両手を一緒に、キーホールを描くように水をかき、両手のひらが胸の前を通過してから大腿へ向かって水を押し。手の甲が前を向いたまま腕を抜き、そのまま肘を落とさずに前方へ運ぶ。 ・授業毎に振り返りシートを記入する ○記録会 ・2.5mをクロールと平泳ぎでタイム計測をする。	A 単元 【知識及び技能】 ○知識 ・技術の名称や行い方、運動観察の方法などについて理解している。 ○技術 ・背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、速く泳ぐことが出来る。 ・バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで速く泳ぐことが出来る。 【思考力・判断力・表現力等】 ・泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを振り返りレポートに書き残している。 【学びに向かう力・人間性等】 ・水泳に自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようすることなどをしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	8
2 学 期	【知識及び技能】 ○知識 ・技術の名称や行い方、運動観察の方法などをについて理解している。 ○技術 ・背泳ぎでは、ブルは体側の位置から肘を伸ばし、肩を支点にまっすぐに肩の延長線上に入手し、キックは足首をしっかりと使い、一定のリズムで力強く蹴り、ローリングをしながら伸びのある泳ぎをすることができる。 ・バタフライでは、二蹴り一かきのリズムでタイミングに合わせて大きな伸びのある泳ぎをすることができる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・泳法などの改善についてのポイントを発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全についての自己や仲間の取り組み方などの課題を発見し、書き残したりしている。 ・自己や仲間の課題について、思考し判断したことを言葉や文章などで表したり、他者に分かりやすく伝えたりしている。 【学びに向かう力・人間性等】 ・自己や仲間の課題に応じた練習方法を選択する学習などに自主的に取り組んでいる。 ・自己の体力や技能の程度に応じて泳ぐ。 ・無理な潜水は意識障害の危険があるため行わない。	○水慣れ後、2.5mを各泳法で泳ぐ。 ・背泳ぎでは、ブルの入手後手のひらで水をとらえ、肘を60～90度程度曲げて体の横から水を大腿の方へ押す。肩をスムーズにローリングさせることを意識する。 ・バタフライでは前方から両手を一緒に、キーホールを描くように水をかき、両手のひらが胸の前を通過してから大腿へ向かって水を押し。手の甲が前を向いたまま腕を抜き、そのまま肘を落とさずに前方へ運ぶ。 ・授業毎に振り返りシートを記入する ・各泳法のポイントや改善点を見つけてペアやグループで発表し、課題を意識して練習をする。 ○記録会 ・2.5mを背泳ぎでタイム計測をする。	【知識及び技能】 ○知識 ・技術の名称や行い方、運動観察の方法などについて理解している。 ○技術 ・背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、速く泳ぐことが出来る。 ・バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで速く泳ぐことが出来る。 ・背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことが出来る。 【思考力・判断力・表現力等】 ・泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを振り返りレポートに書き残している。 【学びに向かう力・人間性等】 ・水泳に自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようすることなどをしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	8
3 学 期	持久走を実施						合計 16

高等学校 令和7年度（2学年用）教科 保健体育 科目 保健

单位数： 1 单位

教科担当者：（A・B・E組：中村 ）（C・D・F組：佐藤 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

教科 保健体育 の目標：

科目 保健 の目標：

第1章（現代社会と健康）

[illegible]

	・加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題について理解する。 ・若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解する。 ・高齢者の暮らしや健康を支えるために必要な社会の取り組みについて理解する。 ・高齢社会における健康課題について理解する。	加齢と健康 高齢社会に対応した取り組み	【知能及び技能】 ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流を持つことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健、医療、福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取り組みと社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択したり論などを話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立ててせつめいしている。 【学びに向かう力・人間性等】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
1 学 期	・働くことの意義と働き方の多様化について理解する。 ・働く人における健康問題について理解する。 ・労働環境の変化に伴い、労働災害の要因も変化していることを理解する。 ・労働災害を防止するための様々な取り組みについて理解する。 ・職場での心身両面にわたる積極的な健康づくり活動について理解する。 ・働く人の健康には余暇の活用など生活の質の向上も重要であることを理解する。	働くことと健康 労働災害の防止 働く人の健康づくり	【知能及び技能】 ・労働による障害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い、質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理と安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連づけたりして自他や社会の課題を発見している。 ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連づけて、課題解決の方法に応用している。 ・労働災害と健康について、習得した知識を基に労働災害の防止に向けて、個人の取り組み社会的対策を整理している。 ・労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 【学びに向かう力・人間性等】 労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	5

2 学 期	・大気汚染による健康への影響について理解する。 ・地球規模で起きている大気汚染の問題について理解する。	大気汚染と健康	【知能及び技能】 ・人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康への影響や被害を防止するために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的、計画的対策が講じられることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校、地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連づけたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 ・環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 【学びに向かう力・人間性等】 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	・水質汚濁による健康への影響について理解する。 ・土壌汚染による健康への影響について理解する。	水質汚濁・土壌汚染と健康					
	・環境汚染による健康への影響を防ぐために行われている対策について理解する。 ・産業廃棄物の処理や、新たな環境汚染の課題について理解する。	健康被害を防ぐための環境対策					
	・安全な水の確保のために必要な上下水道の整備の現状と課題について理解する。 ・生活環境を保全するためのごみ処理の現状と、今後の課題について理解する。	環境衛生に関わる活動					
	・食品の安全性を確保するための行政や生産製造業者の役割について理解する。 ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性の確保が重要であることを理解する。	食品の安全と健康	【知能及び技能】 ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性がそこなわれると、健康に健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造、加工、保存、流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・食品衛生に関わる健康被害の防止と健康増進には、適切に情報を公開、活用するなど行政、生産者、製造者、消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連づけたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識と自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進する計画を立てている。 ・食品と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 【学びに向かう力・人間性等】 食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	・食品の安全性を確保するための行政や生産製造業者の役割について理解する。 ・食品による健康被害を防ぐために私たち消費者が果たす役割について理解する。	食品の安全性を確保する取り組み					

第2章（生涯を通じる健康）

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
・思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。 ・思春期に起こりやすい健康課題について理解する。 ・自分の行動への責任感や異性の理解と尊重の必要性について理解する。 ・性行動の選択には性情報への適切な対処が必要であることを理解する。	思春期と健康 性意識の変化と性行動の選択	【知能及び技能】 ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 【学びに向かう力・人間性等】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
・保健行政の役割について理解する。 ・健康の保持増進には保健サービスの適切な活用が重要であることを理解する。 ・医療保険の仕組みについて理解する。 ・医療サービス適切な活用方法について理解する。 ・医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについて理解する。 ・医薬品は、使用法に関する注意を守り、正しく使う必要があることを理解する。	保健制度とその活用 医療制度とその活用 医薬品の制度とその活用	【知能及び技能】 ・わが国には、人々の健康を支えるための保健医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康を保持増進するするためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解したうえで、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力・判断力・表現力等】 ・保健医療制度及び地域の保健医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連づけながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ・保健医療制度及び地域の保健医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 【学びに向かう力・人間性等】 保健医療制度及び地域の保健医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
						合計
						35

高等学校 令和7年度（2学年用）

芸術 科目 音楽Ⅱ

教科：芸術 科目：音楽Ⅱ 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年A～F組

教科担当者：（A組：友田）（B組：友田）（C組：友田）（D組：友田）（E組：友田）（F組：友田）（G組：友田）

使用教科書：（ON! 2（音楽之友社））

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】芸術を表現したり鑑賞したりする際に必要な知識を習得するとともに、多様な作品についてそれぞれの思いや意図に基づいた表現が出来るための技能を高める。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・様々な様式の音楽作品について理解を深める。 ・音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を高める。 ・談話能力を高め、音楽理論について理解を深める。	・感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を高めたり、分析的に音楽を聴いてそのよさや価値観等を論評する。	・音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を高める。 ・我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、そのよさを味わえる力を高める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	A 愛唱歌を歌う 【知識及び技能】 ・音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号について、音楽における働きと関わらせて理解するとともに、曲にふさわしい発声や言葉の発音、身体の使い方などの技能を高める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・音楽の諸要素について、知覚したり感受したりしたことを総合的に考え、歌唱表現に関わる知識や技能を高めたり生かしたりしながら、自己のイメージを持って歌唱表現を創意工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的・協働的に歌唱表現に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	・指導事項 （ア）歌唱表現に関わる知識や技能を高めたり生かしたりしながら、自己のイメージを持って歌唱表現を創意工夫させる。 （イ）曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めさせる。 （ウ）言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解を深めさせる。 （エ）曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を向上させる。 （オ）他者との調和を意識して歌う技能を向上させる。 ・教材 「地球星歌」 「ひまわりの約束」 「ふるさと」	○			○	【知識・技能】 ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 ・音楽を形作っている要素及び音楽に関する用語や記号について、音楽における働きと関わらせて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために求められる、曲種に応じた発声、言葉の発音、身体の使い方、他者との調和を意識して歌う技能を高めている。 【思考・判断・表現】 ・音楽の諸要素について、知覚したり感受したりしたことを総合的に考え、歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージを持って歌唱表現を創意工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・曲想と音楽の構造との関りに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱表現に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	B リズムアンサンブルの楽しさを味わう 【知識及び技能】 ・曲想と音楽の構造との関わりを理解し、創意工夫をしてリズムアンサンブルにふさわしい音楽表現をできる技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・各パートのリズムや強弱を知覚し、お互いのかかわりについて考え、そこから感受したことをふまえて、表現意図をもつとともに面白さ・良さを味わう。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的・協働的に取り組むことでアンサンブルの楽しさを味わう。	・指導事項 （ア）アンサンブル表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージを持ってアンサンブル表現を創意工夫させる。 （イ）反復・変化・対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付けさせる。 （ウ）主体的・協働的に取り組ませ、アンサンブルの楽しさを味わわせる。 ・教材 「クラッピング・カルテット」				○	【知識・技能】 ・曲想と音楽の構造との関わりを理解し、創意工夫をしてリズムアンサンブルにふさわしい音楽表現をできる技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・各パートのリズム・テンポ・強弱・反復等の関係性が重要であることを理解し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、アンサンブルとして合わせることへの表現意図を持っている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・アンサンブル活動がもつ楽しさや、アンサンブル技能の向上に関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	C ミュージカルに親しむ 【知識及び技能】 ・曲想と音楽の構造との関わり、登場人物の歌う様々なナンバーの表現形態の特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、その働きを感受し、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、登場人物の心情を捉えて、イメージをもって歌唱表現に創意工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ミュージカルに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む。	・指導事項 （ア）歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージを持って歌唱表現を創意工夫させる。 （イ）曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解させる。 （ウ）曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けさせる。 ・教材 「ウエストサイドストーリー」より「Tonight」	○			○	【知識・技能】 ・曲想と物語の特徴と登場人物との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために楽曲にふさわしい発声・発音などの技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、その働きを感受し、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、物語の登場人物のイメージをもって歌唱表現に創意工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生徒自らがミュージカルに興味・関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている。	○	○	○	12

2 学 期	Dアルトリコーダー2重奏 【知識及び技能】 ・旋律とベース音の関係について理解し、お互いの音を聴きあいながら演奏するアンサンブル能力を身に付ける。 ・パートナーソングについてその構造を理解し、お互いの音を聴きあいながら演奏するアンサンブル能力を身に付ける。 ・英語音名による読譜に慣れる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・楽曲の構成による音楽的效果を考えながら表現を工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・仲間と主体的・協働的にアンサンブル活動に取り組む姿勢を養う。	・指導事項 (ア) 旋律とベース音の関係について理解させる。 (イ) パートナーソングについてその音楽的構造を理解させる。 (ウ) お互いの音を聴きあいながら演奏するアンサンブル能力を身に付けさせる。 (エ) 英語音名による読譜に慣れさせる。 (オ) 仲間と主体的・協働的にアンサンブル活動に取り組ませる。 ・教材 「Old Bill Jones」 「Lemon」	○			【知識・技能】 ・旋律とベース音の関係について理解し、お互いの音を聴きあいながら演奏するアンサンブル能力を身に付けている。 ・パートナーソングについてその構造を理解し、お互いの音を聴きあいながら演奏するアンサンブル能力を身に付けている。 ・英語音名について理解し、楽譜を読むことが出来る。 【思考・判断・表現】 ・楽曲の構成による音楽的效果を考えながら表現を工夫することが出来る。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・仲間と主体的・協働的にアンサンブル活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	Eギターに親しむ 【知識及び技能】 ・楽曲にふさわしい奏法などの技能を身につける。 ・曲想とギターの基本的な奏法との関わりについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・音色やコードの響きを感じ取りながら、どのように演奏するかについて自分なりに考えながら表現する。 【学びに向かう力、表現力等】 ・ギターの独奏やアンサンブルの演奏をすることに興味をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組む。	・指導事項 (ア) 楽典の初歩として音階とダイアグラムについて指導する。 (イ) ギターの楽曲に親しみをもち、ギターを弾くことに興味をもたせる。 (ウ) コード表から簡単な和音(コード)を弾けるようにさせる。 ・教材 音階練習プリント 「アニーローリー」 「Good Morning To All」	○			【知識・技能】 ・楽曲にふさわしい奏法などの技能を身につけている。 ・曲想とギターの基本的な奏法との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・音色やコードの響きを感じ取りながら、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 【学びに向かう力、表現力等】 ・ギターの独奏やアンサンブルの演奏をすることに興味をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	Fゴスペル音楽 【知識及び技能】 ・ゴスペル音楽の特徴を理解し、曲種に応じた発声法で歌う。 【思考力、判断力、表現力等】 ・言葉(歌詞)のリズムと旋律の関連を知覚し、それらの働きを感じ取りながら、どのように歌唱表現するか自分なりの考えをもって表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ゴスペル音楽について関心を持ち、それぞれの楽曲の雰囲気大切にしながら、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組む。	・指導事項 (ア) ゴスペル音楽の特徴を理解させ、曲種に応じた発声法を追究させる。 (イ) 言葉(歌詞)のリズムと旋律の関連を知覚させ、それらの働きを感じさせながら、どのように歌唱表現するか自分なりの考えをもって表現させる。 (ウ) ゴスペル音楽について楽曲の雰囲気大切に歌唱の活動に取り組ませる。 ・教材 「天使にラブソングを」より「Hail Holly Queen」	○	○		【知識・技能】 ・ゴスペル音楽の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、言葉の特徴をとらえた発音などの技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・言葉(歌詞)のリズムと旋律の関連を知覚し、それらの働きを感じ取りながら、どのように歌唱表現するかについて表現意図を持っている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ゴスペル音楽について関心を持ち、それぞれの楽曲の雰囲気をもって、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
3 学 期	Gリコーダーとギターのアンサンブル 【知識及び技能】 ・楽曲にふさわしい奏法などの技能を身につける。 ・曲のアレンジの方法について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・音色やコードの響きを感じ取りながら、どのように演奏すべきか自分なりに考えながら表現する。 【学びに向かう力、表現力等】 ・アレンジすることやアンサンブルの演奏をすることに興味をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組む。	・指導事項 (ア) 楽曲にふさわしい奏法などの技能を身につけさせる。 (イ) アレンジの方法について理解する。 (ウ) 楽曲の雰囲気やコードの響きを感じ取りながら、どのようにアレンジするか自分なりに考えながら表現させる。 (エ) アレンジやアンサンブルに関心をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組ませる。 ・教材 「カントリーロード」 「チェリー」	○	○		【知識・技能】 ・楽曲にふさわしい奏法などの技能を身につけている。 ・アレンジの方法について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・音色やコードの響きを感じ取りながら、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 【学びに向かう力、表現力等】 ・アレンジすることやアンサンブルの演奏をすることに興味をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組もうとしている。	○	○	○	16
	H合唱曲に親しむ 【知識及び技能】 ・音の重なり方についてその響きとともに理解し、お互いのパートを聴きあいながら純正調で響く和声をつくる技能を高める。 ・音楽の和声進行について理解し、それぞれの和音の持つ役割について考えながら、音楽づくりが出来る能力を高める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・音の重なりや和声進行について、知覚したり感受したりしたことを総合的に考え、合唱表現に関わる知識や技能を高めたり生かしたりしながら、自己のイメージを持って歌唱表現を創意工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的・協働的に合唱表現に取り組む、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	・指導事項 (ア) 音の重なり方についてその響きとともに理解させ、純正調で響く和声をつくる技能を高める。 (イ) 音楽の和声進行について理解させ、それぞれの和音の持つ役割について考えさせる。 (ウ) 音の重なりや和声進行について、知覚したり感受したりしたことを総合的に考えさせ、自己のイメージを持って歌唱表現を創意工夫させる。 (エ) 主体的・協働的に取り組ませ、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。 ・教材 「あなたへ」 「友」	○	○		【知識及び技能】 ・音の重なり方についてその響きとともに理解し、お互いのパートを聴きあいながら純正調で響く和声をつくる技能を高めている。 ・音楽の和声進行について理解し、それぞれの和音の持つ役割について考えながら、音楽づくりが出来る能力を高めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・音の重なりや和声進行について、知覚したり感受したりしたことを総合的に考え、合唱表現に関わる知識や技能を高めたり生かしたりしながら、自己のイメージを持って歌唱表現を創意工夫できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的・協働的に合唱表現に取り組む、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身につけているか。	○	○	○	10

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 芸術科 科目 美術Ⅱ

教 科： 芸術科 科 目： 美術Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（ AB組：阿部 ）（ CD組：阿部 ）（ EF組：阿部 ）

使用教科書：（ 日本文教出版 高校生の美術 2 ）

教科 芸術科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 美術Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現		鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵 彫	デ 映						
1 学 期	A 日本画制作 絵巻物を作ろう（絵画） 【知識及び技能】 ・日本画の絵の具や水墨の特徴などを基に、全体のイメージや作風で捉えることを理解する。 ・筆の使い方を理解し、効果的にその特性を活かし、表す。 ・絵巻という表現方法の中で、創意工夫し、主題を追求して創造的に表す。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自身が感じ取ったことや考えたことから創作対象を生成し、表現形式の特性を生かし、構図や明暗などを考え創造的な表現の構想を練る。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に絵巻という形式から感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとする。 ・主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい風景像などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとする。	・指導事項 ○日本画の絵の具と水墨を使い絵巻物の形で表現する ・教材 巻紙、日本画絵の具、水墨 ・一人1台端末の活用 等 ○制作した作品の画像を撮影し、その変容や作品の変化を読みとる。 ○作品の鑑賞を行い、意見交換をしながら表現の視野を広げる	○		○	【知識及び技能】 ・日本画の絵の具や水墨の特徴を基に、全体のイメージや作風で捉えることを理解している。 ・日本画の絵の具を理解し、効果的にその特性を活かし、表している。 ・絵巻という表現方法の中で、創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自身が感じ取ったことや考えたことから創作対象を生成し、表現形式の特性を生かし、色彩・構図や質感などを考え創造的な表現の構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に絵巻物を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい内面の世界などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	○	○		26
2 学 期	A スノードームをつくろう（彫刻） 【知識及び技能】 ・色彩・構図・造形的な特徴などを基に、スノードーム全体のイメージや作風で捉えることを理解する。 ・2種類の粘土の素材感を理解し、その特性を活かし、効果的に表す。 ・スノードームという表現方法の中で、創意工夫し、主題を追求して創造的に表す。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自身が感じ取ったことや考えたことから対象を生成し、表現形式の特性を生かし、色彩・構図などを考え創造的な表現の構想を練る。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的にスノードームを見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとする。 ・主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい世界観などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとする。	・指導事項 ○スノードームのデザインを考える ○2種類の粘土それぞれの技法を習得をする ○ラミネートの技術を使い、ドーム内の装飾を制作する ・教材 樹脂粘土、石粉粘土、アクリル絵の具、ラミネーター ・一人1台端末の活用 等 ○Teamsや作品の鑑賞を行い、意見交換をしながら表現の視野を広げる	○		○	A ステンドグラスをつくろう（デザイン） 【知識及び技能】 ・色彩・構図・造形的な特徴などを基に、スノードーム全体のイメージや作風で捉えることを理解している。 ・2種類の粘土の素材感を理解し、その特性を活かし、効果的に表している。 ・スノードームという表現方法の中で、創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自身が感じ取ったことや考えたことから対象を生成し、表現形式の特性を生かし、色彩・構図などを考え創造的な表現の構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的にスノードームを見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい世界観などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	○	○		28

3 学 期	A ソーシャルデザイン～社会の課題をデザインで解決しよう（デザイン） 【知識及び技能】 ・現代社会の課題を解決するための提案をする。問題解決のためのデザイン画とワークショップ（イベント）の計画書を作り、創造的なプレゼンテーションができるようになる。 ・問題解決のための表現方法を創意工夫し、目的や計画をもとに創造的に表す。 【思考力、判断力、表現力等】 ・デザインの機能や効果、表現形式の特性を考え創造的な解決策の構想を練る。 ・ソーシャルデザインの目的や機能との調和のとれた洗練された解決方法を感じ取り、意図と創造的なデザインの工夫点などについて考え、見方や感じ方を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に社会の課題を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基にしたデザインの創造活動に取り組もうとする。 ・主体的に企画したソーシャルデザインのよさや美しさを感じ取り、制作者の表したい解決策の価値などについて考え、見方や感じ方を深め、鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとする。	・指導事項 ○グループ共同でオリジナルお菓子の企画を行う ① 商品のアイデアだし ② ロゴデザイン ③ パッケージデザイン ④ 中身サンプルを樹脂粘土を用いて制作 ⑤ 商品企画のプレゼンテーションを行う ・教材 画用紙、ペン、色鉛筆、アクリル絵の具、樹脂粘土 ・一人1台端末の活用 等 ○Teamsや作品を用いてプレゼンテーションを行う。中間講評や最終プレゼンテーションを通して、意見交換をしながら商品デザインの質を向上させる。	○ ○ ○	A ソーシャルデザイン～社会の課題をデザインで解決しよう（デザイン） 【知識及び技能】 ・現代社会の課題を解決するための提案ができる。問題解決のためのデザイン画とワークショップ（イベント）の計画書を作り、創造的なプレゼンテーションができる。 ・問題解決のための表現方法を創意工夫し、目的や計画をもとに創造的に表している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・デザインの機能や効果、表現形式の特性を考え創造的な解決策の構想を練っている。 ・ソーシャルデザインの目的や機能との調和のとれた洗練された解決方法を感じ取り、意図と創造的なデザインの工夫点などについて考え、見方や感じ方を深めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に社会の課題を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基にしたデザインの創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に企画したソーシャルデザインのよさや美しさを感じ取り、制作者の表したい解決策の価値などについて考え、見方や感じ方を深め、鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	○ ○ ○	16	合計	70
-------------	--	---	-------	--	-------	----	----	----

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 芸術 科目 書道Ⅱ

教科：芸術 科目：書道Ⅱ 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～F組

教科担当者：（A～F組：中野）

使用教科書：（書道Ⅱ（東京書籍））

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】芸術科書道として、書体の成立および変遷により、現在使われている文字がどのように出来たのかを理解し、毛筆の特性である弾力性を活かした書写能力を身に着けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】課題となる古典（過去のすぐれた作品）を見て、特徴や注目点を見つける鑑賞力を高め、その特徴などを表現するには筆をどう扱い動かせばよいかを考え、的確に表現する（書く）能力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】書を学習して身につくものの一つに集中力がある。作品をまとめていく過程では集中力は非常に大切な要素となる。また、一点だけを見るのではなく、全体を見ながら作品と向き合っていく、上手く書けない部分（問題）を修正（改善）する力を身につけていく。それが日常生活に活かされるように。

科目 書道Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書体の成立、変遷により、現在使われている文字がどのように出来たのかを理解し、毛筆の特性である弾力性を活かした筆使いを身に付け、楷書・行書や隷書、仮名の特徴を理解して、各書体の基本的用筆を習得するようにする。	楷書の代表的な古典を比較し、同じ楷書といっても各作品により特徴があることを発見する鑑賞力の重要性を理解していく。その鑑賞のポイントとなる線質の曲直・細太等に着目し、特徴や注目点を整理して表現する力を養う。行書・楷書についても同様。仮名は小筆を使うため、小筆の基本的な扱い方を習得して基礎を身につけていく。	文字や書体成立の歴史を理解して、文字の大切さを改めて認識する。作品をまとめていく上で、途中で投げ出さず最後まで課題と向き合い、修正点や改善点を見つけ、やりとげる力を養い、物事に向き合うときの集中力を身に付けるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			漢 仮	漢	仮						
2 学 期	A 漢字の書（篆・隸・楷書） 【知識及び技能】 ・用具用材の特性を生かし、効果的に使えること。 ・姿勢・執筆法を理解し、正しく筆を扱えること。 ・書体の成立と変遷を理解すること。 ・篆・隸書の特徴である蔵鋒・中鋒・波勢・波磔を理解し、それを使うこと。 ・代表古典を押さえて各作品の特徴を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 ・古典作品を鑑賞し、どのような特徴があるか、他の作品と比較すると違いはあるのか等の鑑賞力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品の特徴を表現するためには、どこに注意し、自分の作品のどこを修正していけば良いのか、見比べる集中力を養う。	・指導内容 （ア）用具の中での筆と半紙の特性には気を付けて使えるようにする。 （イ）正しく構え、筆を使う重要性を理解させる。 （ウ）書体の歴史を年表を使いながら理解させていく。 （エ）蔵鋒・中鋒・波勢・波磔を使えるようにする。 （オ）古典により特徴（癖）があること、同じ作者でも時期により特徴が変わることがあることを理解する。 （カ）鑑賞のポイントを理解し、そのポイントに作品を当てはめて特徴を見つけられるようにする。 （キ）自分の作品と参考見本を比べ、何を修正すれば良いかを見つけるようにする。 ・教材 教科書（石鼓文、礼器碑、薦李直表、秦の始皇帝） 参考プリント	○			○	【知識・技能】 ・用具の配置を正しく使えているか。 ・姿勢正し半紙に向き合っているか。 ・書体の歴史を理解できているか。 ・蔵鋒・中鋒・波勢・波磔をしっかりと使えているか。 【思考・判断・表現】 ・作品の特徴を理解し、自分の作品に生かせるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・書き続けるだけではなく、書いた作品を見本と比較して修正出来ているか。また、修正点等がわからない時は添削や助言を積極的に求めているか。	○	○	○	22
	授業内実技テスト		○					○	○		2
2 学 期	B 文化祭作品							○			2
	C 漢字の書（行書） 【知識及び技能】 ・行書成立の過程を理解すること。 ・行書の特徴を理解し習得すること。 ・代表古典、作者を押さえて各作品の特徴を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 ・古典作品を鑑賞し、どのような特徴があるか、他の作品と比較すると違いはあるのか等の鑑賞力を高める。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品の特徴を表現するためには、どこに注意し、自分の作品のどこを修正していけば良いのか、見比べ発見する集中力を高める。	・指導内容 （ア）行書成立の過程を年表等を使い、理解すること。 （イ）行書の特徴を成立過程から理解し、習得すること。 （ウ）代表古典、作者を押さえて各作品の特徴を理解すること。 （エ）古典作品を鑑賞し、どのような特徴があるか、他の作品と比較すると違いはあるのか等を時代背景も考えていくようにする。 （オ）自分の作品に特徴が表現出来ているか参考見本と比べ、修正点、改善点を発見出来るよう細部まで鑑賞するよう指導する。 ・教材 教科書（集王聖教序、祭姪文稿、伊都内親王願文、王羲之、三筆と三跡） 参考プリント	○			○	【知識・技能】 ・行書成立の過程を理解している。 ・行書の特徴を理解し習得している。 ・代表古典、作者を押さえて各作品の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ・古典作品を鑑賞し、どのような特徴があるか、他の作品と比較すると違いはあるのかを時代背景も含め考えられているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分の作品に特徴が表現出来ているか参考見本と比べ、修正点、改善点を発見出来るか。また、それがわからない時は添削や助言を積極的に求められるか。	○	○	○	14

2 学 期	D 漢字の書（草書） 【知識及び技能】 ・草書成立の過程を理解すること。 ・草書の特徴を理解し経験すること。 【思考力、判断力、表現力等】 ・特徴を理解する上で既に学習した楷書・行書と関連付けて考えられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・草書の特徴を表現するためには、筆の細やかな使い方が必要になる。その使い方に根気よく向かい合う集中力を高める。	・指導内容 (ア) 草書成立の過程を年表等を使い、理解すること。 (イ) 草書の特徴を成立過程から理解し、経験すること。 (ウ) 特徴を理解する上で既に学習した楷書・行書と関連付けて考えられるようにする。 (エ) 筆の細やかな使い方に根気強く向かい合えるようにする。 ・教材 教科書・参考プリント	○	○	○	○	○	○	6
	E 書き初め作品 【知識及び技能】 ・漢字五体（楷・行・草・隸・篆）の基本用筆を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・用筆を理解した上で、自分の好きな書体を選び、書風を決め表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自ら決めた書体・書風で良いか、変更するか、客観的に見る力、修正点・改善点を見つけ出し、直していく集中力を養う。	・指導内容 (ア) 参考見本を使い、五体の用筆、注意点を理解させる。 (イ) 字典を使い、各書体の様々な形を調べ、自分に合う書体・書風を決める。 (ウ) 書いた作品を鑑賞し、自分に合っているかどうか、合っているならば修正点はどこか、合っていないならば、どのように変更していくか助言を与えながら考えさせる。 ・教材 五体字類 参考見本・プリント	○	○	○	○	○	○	4
	授業内実技テスト		○				○	○	2
3 学 期	F 仮名の書 【知識及び技能】 ・仮名の成立と種類を理解すること。 ・小筆の執筆法を理解し、扱えるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・仮名の字源を考えて、仮名を書く時の運筆のリズムを判断し、書けるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・仮名は元は漢字の当て字から始まり、日本独自の文字として成立したことを忘れずに、平仮名を大切にすることを養い、丁寧に書けるようにする。	・指導内容 (ア) 仮名の成立を変遷順に理解していく。 (イ) 小筆と大筆の違いを理解させ、小筆の扱い方を習得させる。 (ウ) 仮名の字源を踏まえて、運筆のリズムを理解して書けるようにする。 (エ) 漢字は中国で長い年月を経て成立してきたと同様に、仮名は漢字が日本に伝来し、当て字として日本語を表記しながら現在の平仮名になったことを理解させ、文字を大切にすることを養う。 ・教材 教科書・参考プリント	○	○	○	○	○	○	14
	授業内筆記テスト		○	○	○	○	○	○	2
	授業内実技テスト			○			○	○	2
				○			○	○	合計 70

高等学校 令和7年度（2学年用）教 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教 科： 外国語 科 目： 英語コミュニケーションⅡ 単位数： 4 単位
対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組
教科担当者：（ A組：河西 ） （ B組：池田 ） （ C組：岸谷 ） （ D組：河西 ） （ E組：池田 ） （ F組：岸谷 ）
使用教科書：（ 第一学習社 CREATIVE English Communication Ⅱ ）
教科 外国語 の目標：
【知 識 及 び 技 能】 外国語の理解を深めながら、その知識を実際のコミュニケーションで適切に活用できる技能を身に付ける
【思考力、判断力、表現力等】 日常的な話題や社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解し表現し伝え合う力を養う
【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化の理解を深め、主体的、自立的に外国語によるコミュニケーションを図る態度を養う

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：		【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞く事、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手。話し手、書き手に配慮しながら、主体的・自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書					
1 学 期	Lesson1 ・国連ユース気候サミットの参加者の活動とメッセージを的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。特にそれぞれの参加者の問題意識の共通点と、相違点、またその背景を理解する。 ・整理した内容を活用して、自分が模擬サミットに参加したと想定して、環境保護のためにしたい活動を説明することができる。そのために具体的に正しい情報を集め、それに基づいた主張を導く。	〈題材内容とねらい〉 ・国連ユース気候サミットの参加者の活動とメッセージを的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、自分が模擬サミットに参加したと想定して、環境保護のためにしたい活動を説明することができる。 〈文型・文法事項〉 ・さまざまな助動詞、分詞構文（現在分詞）について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 〈五領域の知識・技能〉 ・英文の内容に応じた音読をすることができる。 〈場面・状況など〉 ・模擬サミットの特徴を理解し、聞き手に配慮して、環境保護のためにしたい活動について説明しようとしている。						【知識及び技能】 ＜聞くこと＞ リズムなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ＜読むこと＞ 語順や意味のまとまりなどを理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ＜話すこと＞ リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 発表のときに必要な表現などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝える際に、発表のときに必要な表現などの知識を活用することができる。 ＜書くこと＞ 語順やパラグラフの構造などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順やパラグラフの構造などの知識を活用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ＜聞くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を聞き取ることができる。 ＜読むこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を読み取ることができる。 ＜話すこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝え合うことができる。コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝えることができる。 ＜書くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく書いて伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ＜聞くこと＞ 話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞こうとしている。 ＜読むこと＞ 書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読もうとしている。 ＜話すこと＞ 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りしようとしている。 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語で発表しようとしている。 ＜書くこと＞ 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書こうとしている。				

Lesson2 ・多様な動物の睡眠行動についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・理解し整理した内容を活用して、自分の普段の睡眠習慣について考察し、説明することができる。そこから自分の生活習慣について振り返る。	〈題材内容とねらい〉 ・動物の睡眠についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、自分の睡眠習慣について説明することができる。 〈文型・文法事項〉 ・受け身の分詞構文、副詞節中の (S + be) の省略について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 〈五領域の知識・技能〉 ・未知語の意味を推測して、英文を理解することができる。 〈場面・状況など〉 ・インタビューにおける注意点を理解しようとしている。 ・聞き手や読み手に配慮して、わかりやすく自分の睡眠習慣について説明しようとしている。							【知識及び技能】 ＜聞くこと＞ リズムなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ＜読むこと＞ 語順や意味のまとまりなどを理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ＜話すこと＞ リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 発表のときに必要な表現などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝える際に、発表のときに必要な表現などの知識を活用することができる。 ＜書くこと＞ 語順やパラグラフの構造などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順やパラグラフの構造などの知識を活用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ＜聞くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を聞き取ることができる。 ＜読むこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を読み取ることができる。 ＜話すこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝え合うことができる。 コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝えることができる。 ＜書くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく書いて伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ＜聞くこと＞ 話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞こうとしている。 ＜読むこと＞ 書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読もうとしている。 ＜話すこと＞ 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りしようとしている。 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語で発表しようとしている。 ＜書くこと＞ 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書こうとしている。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	14
定期考査	授業で学習している内容をきちんと習	○ ○		○				○ ○	1		

1 学 期	Lesson3 ・アスリートのスピーチに見られる4つの特徴（相手を称える、相手の功績を認める、心からの感謝を伝える、謙虚な姿勢を示す）についての確に理解し、その内容を整理して伝える。 ・整理した内容を活用して、高校生活で達成したいことについてスピーチをすることができる。	〈題材内容とねらい〉 ・アスリートのスピーチに見られる特徴についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、高校生活で達成したいことについてスピーチをすることができる。 〈文型・文法事項〉 ・関係代名詞の非制限用法、仮定法過去・仮定法過去完了について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 〈五領域の知識・技能〉 ・文章の展開（列挙）に注意して、英文を理解することができる。 〈場面・状況など〉 ・スピーチにおける注意点を理解しようとしている。 ・効果的なスピーチにするための方法を理解し、聞き手に配慮して、わかりやすくスピーチをしようとしている。						【知識及び技能】 ＜聞くこと＞ リズムなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ＜読むこと＞ 語順や意味のまとまりなどを理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ＜話すこと＞ リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 発表のときに必要な表現などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝える際に、発表のときに必要な表現などの知識を活用することができる。 ＜書くこと＞ 語順やパラグラフの構造などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順やパラグラフの構造などの知識を活用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ＜聞くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を読み取ることができる。 ＜読むこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を読み取ることができる。 ＜話すこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝え合うことができる。 コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝えることができる。 ＜書くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく書いて伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ＜聞くこと＞ 話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞こうとしている。 ＜読むこと＞ 書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読もうとしている。 ＜話すこと＞ 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りしようとしている。 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語で発表しようとしている。 ＜書くこと＞ 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書こうとしている。				14
-------------	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	----

1 学期	Lesson4 ・自然災害と防災についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。具体的には、近年の自然災害の増加、世界と日本の自然災害の特徴、伝統的な防災への取り組み、近年の防災のアイデアと技術をふまえて、自然災害と防災に関する理解を深め、その内容を適切に表現する力を涵養する。 ・近年の防災のアイデアと技術を参考に、自分自身が考えた防災グッズについてプレゼンテーションをすることができる。開発したグッズの素材や作り方だけでなく、災害が起こったときのことを具体的に想像したうえで、そのグッズの必要性について説得力をもって説明できる力を涵養する。	〈題材内容とねらい〉 ・自然災害と防災についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、防災グッズについてプレゼンテーションをすることができる。 〈文型・文法事項〉 ・助動詞+have+過去分詞、完了不定詞について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 〈五領域の知識・技能〉 ・文章の展開（例示・追加）に注意して、英文を理解することができる。 〈場面・状況など〉 ・効果的なプレゼンテーションにするための方法を理解し、聞き手に配慮して、わかりやすくプレゼンテーションをしようとしている。						【知識及び技能】 ＜聞くこと＞ リズムなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ＜読むこと＞ 語順や意味のまとまりなどを理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ＜話すこと＞ リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 発表のときに必要な表現などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝える際に、発表のときに必要な表現などの知識を活用することができる。 ＜書くこと＞ 語順やパラグラフの構造などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順やパラグラフの構造などの知識を活用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ＜聞くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を聞き取ることができる。 ＜読むこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を読み取ることができる。 ＜話すこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝え合うことができる。 コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく書いて伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ＜聞くこと＞ 話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞こうとしている。 ＜読むこと＞ 書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読もうとしている。 ＜話すこと＞ 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りしようとしている。 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語で発表しようとしている。 ＜書くこと＞ 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書こうとしている。					14
定期考査	授業で学習している内容をきちんと習得できているかの確認をする。		○	○			○			○	○		1

2 学 期	Lesson5 「日本および世界の元号についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。」日本の元号については日本史で学習する内容に関係し、「大化」や「大宝」は高校生にとってなじみ深い元号ではないだろうか。本課ではまず日本の元号制度の起源をおさえ、日本の元号制度が当時の中国の古典文学から引用される慣習があったことを学ぶ。その一方で、「令和」はその慣習から外れ、「万葉集」にある「梅花の歌三十二首序文」からの引用であることを学び、実際にこの元号の二文字が含まれる句に触れる。さらに目を世界に転じる。最初に、西暦の起源となったグレゴリオ暦を、そして、日本元号の源ともいえる古代中国の元号制度を学ぶ。古代中国は日本にとっても、また世界においても先進国であり、さまざまな道具・知見が日本へと輸入されたが、元号制度もその一つであり、天変地異や珍獣との遭遇などを経験した当時の為政者がそういった経験ごとに改元する慣習も同時に日本に取り入れられたことは、元号を振り返るうえでたいへん興味深いであろう。最後に、「平成」や「令和」などの元号を西暦と併用する日本人にとって、元号の意味を考える。「昭和」「平成」など、その漢字の組み合わせだけの元号はその時代を象徴するとともに、その時代に起こったさまざまな出来事をその時代に生きた人々の間に瞬時に共有させる不思議な力がある。「平成」から「令和」への改元を経験した高校生が、現時点でそれぞれの時代の元号からどのようなイメージを共有できるのか、一歩立ち止まって省みることもこれからの日本を担う若い高校生にとって価値あることと考え、本課のねらいとした。 「日本の俳句の英訳をすることができる。」俳句の英訳は英語を学習・修得するうえでも効果的な方法の一つとされている。季語と五・七・五（十七音節）を核とした定型詩である俳句という日本文化を英語に翻訳することは、2つの文化を融合させる行為でもあると言える。本課では、俳句の英訳を通じ、その作業のコツ、英語による俳句を作ることへの興味の喚起と英語俳句を作ることへの感動・喜びを味わうことをねらいとした。	〈題材内容とねらい〉 ・日本および世界の元号についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・日本の俳句の英訳をすることができる。 〈文型・文法事項〉 ・関係副詞の非制限用法、同格のthatについて理解を深め、これらを適切に活用することができる。 〈五領域の知識・技能〉 ・同格表現や言い換え表現に注意して、英文を理解することができる。 〈場面・状況など〉 ・ディスカッションの役割分担を理解しようとしている。 ・読み手に配慮して、わかりやすい俳句の英訳をしようとしている。						【知識及び技能】 ＜聞くこと＞ リズムなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ＜読むこと＞ 語順や意味のまとまりなどを理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ＜話すこと＞ リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 発表のときに必要な表現などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝える際に、発表のときに必要な表現などの知識を活用することができる。 ＜書くこと＞ 語順やパラグラフの構造などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順やパラグラフの構造などの知識を活用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ＜聞くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を聞き取ることができる。 ＜読むこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を読み取ることができる。 ＜話すこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝え合うことができる。 コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく書いて伝えることができる。 ＜書くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく書いて伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ＜聞くこと＞ 話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞こうとしている。 ＜読むこと＞ 書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読もうとしている。 ＜話すこと＞ 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りしようとしている。 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語で発表しようとしている。 ＜書くこと＞ 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書こうとしている。				14
-------------	---	---	--	--	--	--	--	---	--	--	--	----

[illegible]

2 学 期	Lesson7 ・南谷真鈴さんの生い立ちやエベレスト登頂に至るまでの過程とその後の探検家グランドスラム達成への冒険を知り、彼女の今後の活動計画についても知る。さらに、彼女がそれらの経験から得たメッセージについての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・彼女の経験を知り、整理した彼女のメッセージ内容を活用して、今度は自分自身の目標や行動計画を説明することができる。	〈題材内容とねらい〉 ・南谷真鈴さんの冒険と、彼女のメッセージについての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、自分自身の目標や行動計画を説明することができる。 〈文型・文法事項〉 ・さまざまな仮定法、否定語＋倒置について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 〈五領域の知識・技能〉 ・やり取りをうまく継続させることができる。 〈場面・状況など〉 ・プレゼンテーションの注意点を理解し、聞き手に配慮して、わかりやすく自分自身の目標や行動計画を説明しようとしている。	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 ＜聞くこと＞ リズムなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ＜読むこと＞ 語順や意味のまとまりなどを理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ＜話すこと＞ リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 発表のときに必要な表現などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝える際に、発表のときに必要な表現などの知識を活用することができる。 ＜書くこと＞ 語順やパラグラフの構造などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順やパラグラフの構造などの知識を活用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ＜聞くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を聞き取ることができる。 ＜読むこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を読み取ることができる。 ＜話すこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝え合うことができる。 コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝えることができる。 ＜書くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく書いて伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ＜聞くこと＞ 話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞こうとしている。 ＜読むこと＞ 書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読もうとしている。 ＜話すこと＞ 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りしようとしている。 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語で発表しようとしている。 ＜書くこと＞ 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書こうとしている。	○	○	○	13
-------------	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

Lesson8 ・教科書本文を読んで、電池の歴史と仕組み、それが使用される意義や重要性についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、創造的であるためには何が必要かについての自分の考えを、本文の内容も念頭におきながら説明することができる。	〈題材内容とねらい〉 ・電池の発展についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、創造的であるためには何が必要かを説明することができる。 〈文型・文法事項〉 ・独立不定詞・独立分詞構文, if ... 以外が条件を表す仮定法について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 〈五領域の知識・技能〉 ・文章の展開（時間的順序）に注意して、英文を理解することができる。 〈場面・状況など〉 ・ユーザーマニュアルの情報の特徴を理解しようとしている。 ・聞き手や読み手に配慮して、創造的であるためには何が必要かをわかりやすく説明しようとしている。								【知識及び技能】 ＜聞くこと＞ リズムなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ＜読むこと＞ 語順や意味のまとまりなどを理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ＜話すこと＞ リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 発表のときに必要な表現などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝える際に、発表のときに必要な表現などの知識を活用することができる。 ＜書くこと＞ 語順やパラグラフの構造などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順やパラグラフの構造などの知識を活用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ＜聞くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を聞き取ることができる。 ＜読むこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を読み取ることができる。 ＜話すこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝え合うことができる。 コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝えることができる。 ＜書くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく書いて伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ＜聞くこと＞ 話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞こうとしている。 ＜読むこと＞ 書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読もうとしている。 ＜話すこと＞ 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りしようとしている。 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語で発表しようとしている。 ＜書くこと＞ 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書こうとしている。						
	定期考査	授業で学習している内容をきちんと習得できているかの確認をする。	○	○			○				○	○			1

3 学 期	Lesson9 ・オーバーツーリズムの問題と、COVID-19以降の新しい旅行様式についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、旅行の写真をソーシャルメディアに挙げるべきかどうかについて、自分の意見を複数のパラグラフで書くことができる。	〈題材内容とねらい〉 ・オーバーツーリズムの問題と新しい旅行様式についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、旅行の写真をソーシャルメディアに挙げるべきかどうかについて、自分の意見を複数のパラグラフで書くことができる。 〈文型・文法事項〉 ・前置詞＋関係代名詞、強調構文について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 〈五領域の知識・技能〉 ・パラグラフごとの役割に注意して、英文を理解することができる。 〈場面・状況など〉 ・ソーシャルメディアの特徴を理解しようとしている。 ・旅行の写真をソーシャルメディアに挙げるべきかどうかについて、読み手に配慮して、自分の意見を複数のパラグラフでわかりやすく書こうとしている。						【知識及び技能】 ＜聞くこと＞ リズムなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ＜読むこと＞ 語順や意味のまとまりなどを理解している。また、日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ＜話すこと＞ リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 発表のときに必要な表現などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝える際に、発表のときに必要な表現などの知識を活用することができる。 ＜書くこと＞ 語順やパラグラフの構造などを理解している。また、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順やパラグラフの構造などの知識を活用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ＜聞くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を読み取ることができる。 ＜読むこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を読み取ることができる。 ＜話すこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝え合うことができる。 コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく話して伝えることができる。 ＜書くこと＞ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文でわかりやすく書いて伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ＜聞くこと＞ 話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞こうとしている。 ＜読むこと＞ 書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読もうとしている。 ＜話すこと＞ 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りしようとしている。 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語で発表しようとしている。 ＜書くこと＞ 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書こうとしている。				13
-------------	---	---	--	--	--	--	--	---	--	--	--	----

[illegible]

高等学校 令和7年度（2学年用）教科 外国語 科目 論理・表現Ⅱ

教科： 外国語 科目： 論理・表現Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者： （ AB組：池田 河西 岸谷 ） （ CD組：岸谷 河西 池田 ） （ EF組：渡部 池田 岸谷 ）

使用教科書： （ EARTHRISE English Logic and Expression ⅡStandard ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】 外国語の理解を深めながら、その知識を実際のコミュニケーションで適切に活用できる技能を身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】 日常的な話題や社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解し表現し伝え合う力を養う

【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化の理解を深め、主体的、自立的に外国語によるコミュニケーションを図る態度を養う

科目 論理・表現Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。 ○外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。	○場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。 ○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。	○外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。 ○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 「 や 」	話 「 発 」	書					
1 学 期	1.How interesting Japanese culture is! 【知識及び技能】 現在形・過去形・未来の表現を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分やパートナーのクラブ活動を紹介できるようにする。 ・学校のルールや好きな科目について、理由や具体例などを加えて説明できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく話して伝え合うことができるようにする。 ・聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りすることができるようにする。	【題材】 最近の出来事 【題材に関するタスク】 ・最近の出来事に関する会話を聞いて理解し、質問に答える。 ・最近の出来事に関する文章を読んで理解し、文章を書いたり、発表したりする。 【文法】 ・現在形、過去形、未来の表現について学んで理解する。 ・現在形、過去形、未来の表現を用いて文を作る。 【言語の機能】 ・Narrativeの構造を理解し、展開する。 ・Narrativeの構造を用いて文を作る。	○	○	○	○	○	聞くこと ・リズムなどの音声上の特徴を理解できる。 ・日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を聞き取ることができる。話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞くことができる。 読むこと ・語順や意味のまとまりなどを理解することができる。 ・日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を聞き取ることができる。話し手の意図読み取ることができる。 ・書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読むことができる。 話すこと ・リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解することができる。 ・日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく話して伝え合うことができる。聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りすることができる。 書くこと ・語順やパラグラフの構造などを理解することができる。 ・日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順パラグラフやの構造などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく書いて伝えることができる。読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書くことができる。	○	○	○	6

[illegible]

1 学期	3. Precious water for all 【知識及び技能】 助動詞を理解し、伝えたいことを適切な時制を用いて、書いたり話したりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・キャリアの経験について詳細に話すことができるようにする。 ・自分の将来像や予定していることについて、具体的に詳細を書いて伝えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく話して伝え合うことができるようにする。 ・聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りすることができるようにする。	【題材】 将来のキャリア 【題材に関するタスク】 ・将来のキャリアに関する会話を聞いて理解し、質問に答える。 ・将来のキャリアに関する文章を読んだり理解し、文章を書いたり、発表した。 【文法】 ・助動詞について学んで理解する。 ・助動詞を用いて文を作る。 【言語の機能】 ・Exampleの構造を理解し、展開する。 ・Exampleの構造を用いて文を作る。							聞くこと ・リズムなどの音声上の特徴を理解できる。 ・日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を聞き取ることができる。話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞くことができる。 読むこと ・語順や意味のまとまりなどを理解することができる。 ・日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を聞き取ることができる。話し手の意図を読み取ることができる。 ・書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読むことができる。 話すこと ・リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解することができる。 ・日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく話して伝え合うことができる。聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りすることができる。 書くこと ・語順やパラグラフの構造などを理解することができる。 ・日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順パラグラフやの構造などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく書いて伝えることができる。 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書くことができる。					7
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

2 学 期	5. I'm into music and movies! 【知識及び技能】 不定詞のそれぞれの意味と用法を理解し、適切に使い分けて表現することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 防災に関することについてについて伝え合うことができるようにする。 ・家のルールや小学生の頃のこと、また今後しておきたいことについて、自分の主張に情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠を加えて書いて伝えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく話して伝え合うことができるようにする。 ・聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りすることができるようにする。	【題材】 防災 【題材に関するタスク】 ・防災に関する会話を聞いて理解し、質問に答える。 ・防災に関する文章を読んで理解し、文章を書いたり、発表したりする。 【文法】 ・不定詞（名詞用法・形容詞用法・副詞用法）について学んで理解する。 ・不定詞（名詞用法・形容詞用法・副詞用法）を用いて文を作る。 【言語の機能】 ・Processの構造を理解し、展開する。 ・Processの構造を用いて文を作る						聞くこと ・リズムなどの音声上の特徴を理解できる。 ・日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図聞き取ることができる。話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞くことができる。 読むこと ・語順や意味のまとまりなどを理解することができる。 ・日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図聞き取ることができる。話し手の意図読み取ることができる。 ・書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読むことができる。 話すこと ・リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解することができる。 ・日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく話して伝え合うことができる。聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りすることができる。 書くこと ・語順やパラグラフの構造などを理解することができる。 ・日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順パラグラフやの構造などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく書いて伝えることができる。 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書くことができる。					6
-------------	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

[illegible]

2 学 期	7.What kind of books do you like best? 【知識及び技能】 不定詞：不定詞の様々な用法を学び、より詳細な情報を伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・受け取った贈り物について詳細に伝えることができるようにする。 ・自分の夢、高校生が日常生活で行うべき大切なこと、日常生活でしないように気を付けていることについて、自分の意見や主張などを適切な理由や根拠と共に書いて伝えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく話して伝え合うことができるようにする。 ・聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りすることができるようにする。	【題材】 食 【題材に関するタスク】 ・食に関する会話を聞いて理解し、質問に答える。 ・食に関する文章を読んで理解し、文章を書いたり、発表したりする。 【文法】 ・動名詞について学んで理解する。 ・動名詞を用いて文を作る。 【言語の機能】 ・Cause and Effectの構造を理解し、展開する。 ・Cause and Effectの構造を用いて文を作る。						聞くこと ・リズムなどの音声上の特徴を理解できる。 ・日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を聞き取ることができる。話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞くことができる。 読むこと ・語順や意味のまとまりなどを理解することができる。 ・日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を聞き取ることができる。話し手の意図を読み取ることができる。 ・書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読むことができる。 話すこと ・リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解することができる。 ・日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく話して伝え合うことができる。聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りすることができる。 書くこと ・語順やパラグラフの構造などを理解することができる。 ・日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順パラグラフやの構造などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく書いて伝えることができる。 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書くことができる。					6
-------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

2 学 期	8. Inventions that changed the way we like 【知識及び技能】 動名詞：動名詞の様々な用法を学び、動名詞句を使用した多様な文で伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・スポーツをすることの利点について発表することができるようにする。 書・得意なスポーツや活動、楽しみにしていることについて、情報や具体的を加えて詳細に書いて説明することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく話して伝え合うことができるようにする。 ・聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りすることができるようにする。	【題材】 ICTとバリアフリー社会 【題材に関するタスク】 ・ICTとバリアフリー社会に関する会話を聞いて理解し、質問に答える。 ・ICTとバリアフリー社会に関する文章を読んで理解し、文章を書いたり、発表したりする。 【文法】 ・分詞について学んで理解する。 ・分詞を用いて文を作る。 【言語の機能】 ・Exampleの構造を理解し、展開する。 ・Exampleの構造を用いて文を作る。	○	○	○	○	○	聞くこと ・リズムなどの音声上の特徴を理解できる。 ・日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を聞き取ることができる。話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞くことができる。 読むこと ・語順や意味のまとまりなどを理解することができる。 ・日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を聞き取ることができる。話し手の意図を読み取ることができる。 ・書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読むことができる。 話すこと ・リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解することができる。 ・日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく話して伝え合うことができる。 聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りすることができる。 書くこと ・語順やパラグラフの構造などを理解することができる。 ・日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順パラグラフやの構造などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく書いて伝えることができる。 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書くことができる。	○	○	○	7
	定期考查		○			○			○	○		1

3 学 期	9. Can you come to our party? 【知識及び技能】 関係代名詞を修飾する用法や補語になる用法、また分詞構文や付帯状況を表す分詞を用いて表現することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 世界平和に貢献した人々について発表することができるようにする。 国内国外の情勢について、具体例や詳細な情報を加えて文章を書いて伝えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく話して伝え合うことができるようにする。 ・聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りすることができるようにする。	【題材】 世界平和に貢献した人々 【題材に関するタスク】 ・世界平和に貢献した人々に関する会話を聞いて理解し、質問に答える。 ・世界平和に貢献した人々に関する文章を読んで理解し、文章を書いたり、発表したりする。 【文法】 ・関係代名詞について学んで理解する。 ・関係代名詞を用いて文を作る。 【言語の機能】 ・Narrativeの構造を理解し、展開する。 ・Narrativeの構造を用いて文を作る。						聞くこと ・リズムなどの音声上の特徴を理解できる。 ・日常的・社会的な話題の英文を聞く際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を聞いて、必要な情報や概要、要点、話し手の意図を聞き取ることができる。話し手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を聞くことができる。 読むこと ・語順や意味のまとまりなどを理解することができる。 ・日常的・社会的な話題の英文を読む際に、語順や意味のまとまりなどの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題の英文を読んで、必要な情報や概要、要点、書き手の意図を聞き取ることができる。話し手の意図を読み取ることができる。 ・書き手の意図などを念頭に、主体的・自律的に英文を読むことができる。 話すこと ・リズムやイントネーションなどの音声上の特徴を理解することができる。 ・日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを話して伝え合う際に、音声上の特徴などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく話して伝え合うことができる。聞き手に配慮しながら、主体的・自律的に英語でやり取りすることができる。 書くこと ・語順やパラグラフの構造などを理解することができる。 ・日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを書いて伝える際に、語順パラグラフやの構造などの知識を活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的・社会的な話題に関する情報や考え、気持ちなどを、聞いたり読んだりしたことを参考に、基本的な語句や文で分かりやすく書いて伝えることができる。 読み手に配慮しながら、主体的・自律的に英文を書くことができる。					7
-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

[illegible]

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭

科目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（ AB組：友成・岩元・近藤 ）（ CD組：友成・岩元・近藤 ）（ EF組：友成・岩元・近藤 ）

使用教科書：（ 東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造 ）

教科 家庭 の目標：

- 【知識及び技能】 家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現できる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭・地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養うことができる。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解ができている。 ・実生活に必要な基礎的技術を身につけている。	・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定できている。 ・課題を見出し解決策を厭離的に考え表現できている。	・様々な人々と協働し、自分や他者・地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養うことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	思考	表現	技術	管理	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A人の一生と家族・家庭及び福祉子供の生活と保育・衣生活と健康 【知識及び技能】 ・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解する。 ・現在と過去の家族法の違いについて理解できている。 ・乳幼児期の心身の発達や支援に必要な基礎的知識を身につける。 ・基礎的裁縫技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深め、自己表現できている。 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行う。 ・様々な縫い方がどのような点に活用できるのか考え、丁寧に縫い方を表現できるよう工夫で来ている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自分の目指すライフスタイルを実現するために、各ライフステージの特徴と課題やライフイベントと関連付けたり、職業選択、仕事と生活の調和を主体的に考えようとしている。 ・衣服の修繕などに活用できる基礎的な技術を身につけようと積極的に取り組んでいる。	・指導事項 ○人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方をグループワークなどを通して考える。 ○基礎縫いを学ぶ。 ・教材 教科書・プリント・裁縫道具、一人1台端末の活用 等	○	○	○		【知識及び技能】 ・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解できている。 ・旧民法と現行民法に違いについて理解する。 ・乳幼児期の心身の発達とそれを支える生活、子供が育つ環境、子育て支援、乳幼児との関わり方などについて基礎的な知識や技能を身につける。 ・玉止め・玉結び・なみ縫い・まつり縫い・ボタン付けの方法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深め、自己表現できている。 ・将来の自立に向けて必要な情報などを理解し整理できている。 ・玉止め・玉結び・なみ縫い・まつり縫い・ボタン付けを丁寧かつ丈夫に行うために必要なことを考えられている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自身の将来について考え、職業選択、仕事と生活の調和を主体的に考え他者と意見交換し多様な考えを共有しようとしている。 ・基礎縫いの技術を身につけようと積極的に取り組んでいる。	○	○	○	22
2 学 期	A 食生活と健康・衣生活と健康 【知識及び技能】 ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解する。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解できている。 ・基礎的裁縫技術の定着がでている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の食生活を振り返り、食品購入から調理、食事において、ライフステージの特徴に応じた健康によい食生活の在り方及び環境の維持について考え、表現できている。 ・被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫を考え表現できている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質について理解し、自身や家族の健康について積極的に考えられている。 ・様々な食文化について積極的に理解しようとしている。 ・基礎的裁縫技術を活用し、作品を丁寧に完成させようとしている。	・指導事項 ○ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解する。 ○ライフステージの特徴に応じた健康によい食生活の在り方を考える。 ○基礎的調理技術を身につける。 ○被服材料、被服構成及び被服衛生について理解できている。 ○基礎的裁縫技術を定着し、作品の製作を行う。 ・教材 教科書・プリント・パンケース食品	○	○	○	○	A 食生活と健康・衣生活と健康 【知識及び技能】 ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解できている。 ・調理の基礎技術や食品衛生魏技術を身につけている。 ・基礎的裁縫技術を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の食生活を振り返り、自身や他者のライフステージに応じた健康によい食生活の在り方及び環境の維持について考え、表現できている。 ・被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫を考え表現できている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・日本の食文化について積極的に理解しようとしている。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けるために積極的に取り組んでいる。 ・基礎的裁縫技術を活用し、自分らしい作品を完成させられるよう積極的に取り組んでいる。	○	○	○	○

[illegible]